實語教童子教證註 全

9
1071

門 DM-9
諸 1071
巻

證註 實語教童子教

實語教ハ紀州高野山の開基弘法大師の述作ゟ
初ㇾ人間四大五蘊の事柄示ㇾ中ハ道ひらくこと柄を
終ハ專ら勤め学で天命を去ㇾしめくゝ

童子教ハ天台の碩学慈覚大師の御弟子安然和尚
西の京ゟ麹屋の子ゟ書与へ専ら神佛儒乃
道ゟ立て其勸善懲惡のこと柄著ゟ

東都
書肆 玉巌堂藏

京都府立総合資料館之印

實語教注序

實語教者空海大師所作也師嘗著乎秘
府論三教指歸而彼書與斯書稽查之則
文義甚劣恐是有僞書歟云説雖然講述
之則為其語如引書籍一萬卷蒐輯乎經
傳之格言且摭摭乎佛典之要説豈可為
淺近之語耶何以有垂於美也寔是
大師擁護之密典也蓋其至言教學芭
流為進道之一據子若也時文化丙子春
西春中浣

振鷺亭主人撰

凡例

○此書江湖ふ流行すること數本轉寫相屬も。其疵謬何ことを知怪ふ足らんや。然どそも世本ふ誤まること甚きそのひ。於是予本文の出所を考索して文法の顛倒文字の差錯。章句の訓點。悉ことを校正るの誤改ぎんバひるべくぞ

○二教えと学侶の述作なる。故ふ大抵諸経論釋義等ふ據且經傳子史の要辭を取まろ。其儒書をるところハ漢語を以し。其佛語をるところハ吳音を以し訓讀交ことを以混も。幼童會易んが為ふ平假字を以もて諺解し。援引の書まるき證まるき語のことを以挙繁ハ恐て省畧し。間亦已が意を以附してことを以補ふ

○此篇巻を開バ淺近熟讀もるときハ深長其教儒佛ふ渉る。予ハ其両端を叩て竭も。唯初学の子弟を以て博く学を以勤ためんが為ふ儒佛の道理を以晰もことを註解の旨趣耳

訓点讀方

此章ハ五言と以て句局す梵書伽陀の一體なりことをもその五字ごとに句頭を以きり讀一倶世ふ行ふ校本挍會麁略にて章句の轉倒文字の差錯ること多し今これを改め正しることを以童子等専ら本書の白文を以て誦讀し圈記て誤ることなれ頭書の文点を以直ふ讀くだし假名を以て訓点を附しハ遺忘の時の便りふ備るのみ

實語教證註

江都　振鷺亭貞居　著

此書名づけて實語教という大般若経巻第四百五十七の實語品より出ろ又法華経従地涌出品ふ我今實語を以説汝等一心ふ信ぜよとあり金剛経ふそ如来此實語者真語者と見てう涅槃経巻第二十七ふ正語實語時語とうの熟語ひろことうの佛説ようの實を以語という義なり教ハ傚なり誨るなり空海大師天下後世の童蒙ふ教ふんがためふ斯書を以作まるとなり

○予標題の下ふ講釋の二字を以加よ句瑞ふ講釋ハ和解なりとひろ尹子曰学必講而後明とひろり本文を註解まる事きのごとし

山高故不貴以有樹為貴
人肥故不貴以有智為貴

山高が故ふ
貴からず
樹有を以て
貴と爲
人肥たるが
故ふ貴からず
智有を以て
貴と爲
富ハ是一生
の財
身滅もきバ
即共ふ滅も
智ハ是万代

山ハ高きもかゝりて木のなき尻山あるときハ貴くん何等の益をなき紙ゝ樹木ありてこそ薪ともなり材木ともなりて人間の所用ともなる也ふ貴とまるきもの人をそのごく容のごく大ひふ肥くありこいさげ〳〵ふ能もなく無智者かるしふ愛きふ何〳〵も諺ふいふ放飯流獣の徒なりふ〳〵人ハ智ある紙をもつて為つよ亜一こゝ智の明かなるより仁義禮智のうちを何〳〵いふまでもあり〇大学曰物格而后智至智至而后意誠とあり是ふ萬物紙あきら〳〵むこゝの智ことこれ智ハ事の可否紙ワふそのごく儒道ふ荀子曰是是非非謂之智とこれ智ハ事の可否紙ワふそのごく儒道ふ五常の次第ふ仁紙さきゝ〳〵佛道ふハ智をそつて第一とをこゝ〳〵元亨釋書の智通論ふ見〳〵こう

富是一生財身滅即共滅
智是万代財命終即随行

富とハ金銀衣食ふ足る紙ふ富ハ是一生紙ふそのごく身滅きもきバ財宝ハ即きえうせるごとく也〳〵智ハ是万代の財命終きバ即随て行事ハ今〳〵ぬそ智ハこゝ万代の財として堯舜禹湯文武周公孔子なごの今の世までもその智徳をつゝ聖賢の名紙のこゝ也ふゆゝそこゝ白楽天も金ハこれ財ふして終ふこゝろて他の物とゝる智ハこゝ宝ふして亦宝後ふかゝりて仏国ふ生ぜしいゝかるがゆゝふ財宝紙かろんじ智慧紙あらんせよく対向ふ出せるなり

玉不磨無光爲石尾
人不學無智爲愚人

玉ハそこ光もなく石尾とも玉の光紙ひゝ〳〵もなろ人そのごく智ハ本来人ゝ個ゝの本心みそなゝるゝところなれごも学問のみがき紙くる〳〵ふ磨ゝてひろ紙發をねゆゝふ石をふひそゝき愚人なるこれを人学され智ハなきゝ紙バ愚人ともいふまろこのゆゝふ学問の修行紙ゝてみゝ〳〵ごとくごとくその躰より玉のごとく

玉磨不バ光無
光無をバ石尾と爲
人學不バ智無
智無をバ愚人と爲

倉の内の財ハ朽を有
身の内の才ハ朽を無

千兩の金錢積と雖一日の學ふハ如不

倉内財有朽身内才無朽

（礼記学記篇曰玉琢ざれハ器と成らず人学ざるハ道を知ず）

倉の内ふくく（をく金銀財宝ハいはまでもなく身のうちふかくをさめをく才ハ朽ときなくてのちまでも朽ることなし）

千金万金錢は尽ることあり学問の功ハ及ばぬなり

学問の功成就ちくる者ハ徳ハ誠ふかくて貯ハ多し

（徳ハ身を潤ふ韓文ふ金壁ハ重宝とすべきを費用ハ則餘ハ尽ることあり）

（孔子ふ富ハ屋を潤ふ徳ハ身を潤ふ）

（淮南子ふ聖人ハ尺の壁を重ずして寸陰を惜ふ）

雖積千兩金不如一日學

兄弟常不合慈悲為先

兄弟常ふ合不慈悲を為と

兄弟ハ骨肉の中そつ分よりさまく和合せねバのありもうるときどもを兄ハ弟を愛まて弟ハ兄を敬うやまひよく順ふなり字を和合するなりこゝ兄弟むつまじくて慈悲ふかく慈悲とハ字義ふ慈ハ心柔なり愛なり悲ハ感なり惻なり痛なり

（左傳ふ意合ときハ呉越も相親ふ意合ざるときハ骨肉を讎敵となるとハこのこゝろなり）

財物永不存才智為財物

財物ハ永く存せ不才智を財物と為

財物と八金銀衣服のたぐひを云ちなくハあれどついおうせまじきものふのぞむ心のうちふかくして永く存せんとねがふ智ハ万代不易の財物をしてうせることもなくしてその身の重宝とすべしとなり

四大日ニふ衰心神夜ニふ暗

四大日ニふ衰心神夜ニふ暗

幼き時に勤學不ハ老て後に恨悔と雖尚益ある所有こと無

四大とハ佛説にいふ地大水大火大風大なり人の五躰六分ハこの地水火風の四ツをかりて成就するなりこの四大おのおのまちみのをしときハ安身いづれのところにかいたみなきなりと円覚経に説り心神とハたましいのことをいふ乃四大をかりて人間のかたちを具足しあることのゆへに年さかんにさかりなるときハ四大和合して心神きんなるゆへ無病そくさいなれども年のよるにしたがひてこの四大が日々におとろへ夜とに暗くなりゆくぞさるによりて根氣きんなるときに学問をはげみよとの意をつくれり

幼時不勤学。老後雖恨悔
尚無有所益。

幼時とハ人むまれて十歳よりなるときを幼といふなり禮記の曲禮に見へたり大学の序に人むまれて八歳になるころバまづ礼楽射御書數の法をならハしむるなりこれを小学といへといふなりとかく幼時に学問せざれバ無学文盲の者となりて人々もをづりえしらるとも年あゆてその身をうらみ学びさくもかなふまじ

故に書を讀で倦を勿れ學文に怠る時勿れ眠を除て通夜誦せよ飢を忍で終日習へ師に會と雖學不バ徒に市人に向が如し

おいていふせく後悔すれども益なし○司馬温公が勧学歌に汝等各早脩せよ老の来るを待て徒に自悔ことなかれといへり

故讀書勿倦。学文勿怠時
除眠通夜誦。忍飢終日習

故にとハまへをうけてむすびのちをおこすことバなり倦とハ俗のことぶにたいくつするをいふ学文の修行ハ片時も懈怠することなかれとなり夜ハねぶるべきものなれどもそれをもねぶらず書をよむべしとなり通夜とハ夜のあけるまでをいふなり飢をも忍でとハ食物のひもじきもおかまひなくならひてなりとなり終日とハひるのうちより日のくるるまでをいふなりこの四句ハ学文を法とするもの怠をいましめていふなり○小学曰朝ハ益し暮ハ習ひ心をにつまりして翼ことも此を一分して懈らぬを是を学則と謂ふ

雖會師不學。徒如向市人

習讀と雖復不ハ只隣の財を計るが如し

君子ハ智者を愛し小人ハ福人を愛も

揚子方言ふ師と八人の模範なりと云ふ弟子たるもの師匠ふ向ひてもなるべくひあげる事をなくして学ぶべきぞその義理をきゝめる事をなくして徒ふもごせハ市中まそちぬ人ふむひひくるごとくなんのせんをなき事なり

雖習讀不復只如計隣財

論語ふ学でおをハざるときハ罔とありそのごとくなるひよもむだうつみてハ道ふくらしひとつとりみさきりてはねよその

そ財あをよべ一復とハくりくりくりてよむことなり論語ふ南容三白圭を復をといふことまきなりその義理をきゝねむそのまゝ華厳経および小止観等ふこの語ありとなりの宝を

身ふうへの益をなくむるなり○天台大師云日夜ふ他の宝を数ひて自半銭の分をかぞへるとハ益をなきことの譬なり

君子愛智者小人愛福人

君子と八徳ある人位ふ向ひる財ひてよなり小人と八道を云ふぎる愚なる人のことなり君子ふる人八こゝろふ私欲なく道徳を云ふゆゑふ智ひる人をちよくひよいく小人ハまさ私欲そきゆくふゆゑふ福人を見てハおのがこゝろをまもなくんぐと金銀を云ふゆゑふ君子ハしことよるなり○論語曰君子ハ徳を懐ひ小人ハ土を懐ふ君子ハ刑を懐ひ小人ハ恵を懐ふ

雖入富貴家為貧賤人去

猶如霜下花

富貴と八董卿が孝経大義ふ財足を富といひ位ひる貴といふことなり富貴の家ふ入といへどもを財なき人ハ霜ふいるそる花のちぶめるごとくなりかく解抄ひて見まバこの句の為の一字たぐやうるぐぜ愚按るふ前句ふ小人ハ福人を云ふゆゑふ富貴の家ハ霜の下の花よりくをなの云もそといひて富貴のいゑまもる人の目ぐうを富貴の家ハ霜の下の花よりくをなの云もそといひて富貴のいゑまもる人の目ぐうを富貴の家ハ霜の下の花よりくをなの云もそといひて富且貴ハ我ふ於て孔子の不義ふして

貧賤の門を出ると雖智有人の為ふ者宛泥中の蓮の如し

父母ハ天地の如く師君ハ日月の如し

浮る雲のごとく等の義なるべし○白居易が詩ふ富貴来ること久々ぞ倏として尾溝の霜の如しとよめり

雖出貧賤門為有智人者宛如泥中蓮

皇侃が論語の疏ふ財とぼしき貧賤といひ位なき貧賤といふども智ある人はこころざしよき貧賤のまづしき家よりいでるとよめるごとし○釋恵空が抄書ふ此両段ハふそまぞして清浄なるぞとなり蓮ハ花の中の君子なるよめふ周茂叔なども云云四十二章経云吾沙門と為て濁世ふ処ふらく意味ありと云云○愛せり○釋恵空が抄書ふ此両段ハを當ふ蓮花の泥の為ふ汚さるが如くたとへたるなり

父母如天地師君如日月

天ハ陽気をもて万物ふてらしあたひて一さいその下ふおほひそよく生長するよめふ父の徳ふたとへたるなり父ハ天乃ごとく地ハ陰気躰となりてよくだんだんつぎつぎ子をみそ成就するよめふ母の徳なりうるがよめふ母ハ地のごとくなりて子ふそだてやしなふよめふ父母ハ天地のごとくなり次ふ師ハ師匠さるべき人なり君ハ主君ぢいふなり君の字ハ説文ふ尊なりと訓ぜり

親族如会葬夫妻如尾

親ハちかしむとよむ族ハつどひあつまりまじはるよめふ父母師君のごとくふかくつぶさにおもひあつまりまじはるべき葬の皮のうをきごとくおもふべきよしなり○門一族のことなりまた一門一族のことをも尾ハやきたとへなるべしバかく甲下して云ふなり○書言故事ふ親戚の類を葭莩の親といふこと漢の中山靖王のことバよりいでたるよし注ふ葭ハ蘆なり莩ハそのあをきうろき皮のいろつてうもきそのうろとぢ

親族ハ警ハ葬の如し

夫妻ハ猶尾の如し

父母ニハ朝夕ニ孝せよ師君ニハ晝夜ニ仕よ

父母孝朝夕。師君仕晝夜

父母にハ朝夕に孝せよとハ定省の孝をいふなり孝とハよく父母につかふまつるをいふと尓雅に見えたり定省とハもと禮記曲礼上篇にいでたり人の子たる礼ハ冬ハ父母の身をあたゝめ夏ハ父母の身をすゞしくしゆかをのべまをなほさバ定まりてひしあさに省といふ是を定省とハいふなりこれを朝夕に孝せよといふも次の句ハ師と君とにハ晝夜のいとひなくつかふまつれとなり父と師と君とハみな人のよつて生ずるところなれバ一死を以これを報ずべし此段ハ父と師と君とにつかふまつることの三ッをいへるなり○晋大夫欒共子曰民ハ三に生ずこれに事ること一のごとくせよ父これを生じ師これを教へ君これを食ひなす父にあらざれバ生ぜず食にあらざれバ長ぜず教にあらざれバ知らず生ずるの族なりかるがゆへに一にしてこれに事る唯その在ところにして則死を致すと云これそのつかふまつる事のありかたをいへるべし

友と交て諍事勿れ

己より兄ニハ禮敬を盡し己より弟ニハ愛顧を致せ

人と而智無者ハ木石於異なら不

交友勿諍事。

友とハ傍輩に志しむ人をいふなり友と交るには信をもつぱらとして義をまもつてあらそふことなくそのむつまじきを断金の交といふなり又同心の友といひ同心の言ハその臭ひ蘭のごとしといへり○孔子も晏平仲善人と交久しくしてこれを敬すとのたまへり程子の註に人交久則敬衰久而能敬ぞ所以善となす

己兄盡礼敬己弟致愛顧。

己より兄たるものにハ礼義をまもつてうやまひ己より弟たるものをバいたはりあはれむべきなりたとひ他人なれども十年も年の長じたるものにハ肩をならべずとて道をゆくときも相去ゆるにかくをなすべしゆるやくたりぞきてゆづりけると礼記にあり之より○字彙に愛ハ憐なり顧ハ思念なりといへり左傳にも兄愛弟敬といへりこれ六順のそのところにいへるなり

人而無智者。不異於木石

人と而孝無
者ハ
畜生於異な
ら不

三學の友ふ
交ら不バ
何ぞ七覺の
林ふ遊ん

人而孝者。不異於畜生

人とむまれるそのハをと木や石のやうふ無心なるものふ比をもどそを学問ハせず智慧なきと比ハ木や石ふかゝることなり又人とむまれて二親ふ不孝なるそのハ畜生ふひとしきぞや鳥ハおやふ反哺して恩ハ忘れざる鳩ハおや鳥よりさ枝さゞりてあや残うやまふとハ人の子として不孝ある八禽畜よりも劣るなり〇白樂天が人木石ふ均しそ皆情なりといひしを人くる道ハ孝ハ即畜生と異なることなしとハ大師そ恩孝ハ行ハぎんバ木石ふことるべし善導

不交三學友。何遊七覺林

此段ハ佛説なり三学とハ戒学定学恵学の三つ八り佛の道ハとそんとあるをよく人ハらの戒定恵の三つ八りまなびて出離ハ八ぶ〳〵ふ三学とハなりくるしくも翻訳名義集ふ菩提とハ梵語ふ菩提とハなりけり

不求四等船。誰渡八苦海

四等とハ慈悲喜捨の四つ八り四無量心とそハり楞伽経ふ一ふハ字等二ふハ語等三ふハ身等四ふハ法等とハりをさらけのしひハ慈悲喜捨の四つとそふ等きゆへ四等とハなり次ふハ四十二章経および華厳経八るふ四等とハなり次ふハ八苦と八涅槃経ふよるふ一ふハ生苦二ふハ老苦三ふハ病苦四ふハ死苦五ふハ恩愛別苦六ふハ所求不得苦七ふハ怨憎會苦八ふハ五陰盛苦ハり本文乃こゝろふよくてこの慈悲喜捨の平等の修行を船ふ八るとハ八苦ハ海

ふハ七菩提分とハ一つふハ念覚二つふハ擇法覚三つふハ精進覚四つふハ喜覚五つふハ軽安覚六つふハ定覚七つふハ捨覚なりくハしくハ阿弥陀経の疏抄をふ注ハりいま本文のこゝろこの三学乃修行をなんふまふまし〳〵てハ七覚のさとり八ることかなゝびとハなりそよとなりてハ林とハ丈勢うて山林ふ入てな人とハりそよとなり

四等の船ふ
乗不バ
誰ハ苦の海
を渡らん

人間八苦の生死の海をさまよひつゝ此段ハおさらの事なれども樂をもとむる事故いつまでも
よりてくり〳〵故まねくるゝ樂をもとむる事故いつまでも

八正道雜廣十惡人不往

八正とハ大品経にある正見正思惟正語正業正命正精進正念正定これを故八正道分といふ
注ありまた人の殷の七覚とこの八正を修行するがもちろん佛乃道にあり十惡とハ四十二章経にある身三口四意三とをう身にする三ツ
とハ殺生と偷盗と邪淫と故いつ口の四ツとハ両舌と悪罵と妄言と綺語と故いつ意の三ツとハ嫉と嗔恚と愚癡とをうこの
十惡故はくるそのハ八正のうちひとつとてもつとめざるゆゑをこゝをもつくことハをう〳〵ぬとをう

雜樂放逸不遊

無爲とハ梵語ニ涅槃といふをう華厳経の疏にある為ハ作をう
作ハをなうち生滅をうとをうゆゑ無爲とハ無為とをう

老れるを敬ふハ父母の如し

幼き孩愛をるとハ子弟の如をし

我他人於敬む

他人亦我を敬ふ

敬老如父母幼如子弟

とハ義をう爲とハまよひの生死故いつその生死有爲乃せかいなれどもきてゐもんのむなの都ふいつるがさとりなうこのやまハ
なのこときとまりなーといへども放逸とてころのまゝふぬるをまて悪事故はくるそのハ故のそがさとをう

年あひさる人をこそハ他人なりとをもふがあやまりにてこゝろをうやまふこと
せよとをう孝経にある親を愛をるひとハ敢て人を悪ゝ親を敬
をるひとハ敢て人故慢とをうゝもとをう十歳ぜんこのいとけなき
その故ハ親類おそハをくとをもわが子や弟故いまこそこゝろ
いつくしめとをう論語ふ孔子このこと故子路ふのさまつり〇孟子
曰吾老を老として以人の老ふ及ぼさバ天下故ハ掌ふ運しつべしとある本文のこゝろよくかな
つりおらバこの二句の文ハ天下國家故も治むべし

我敬於他人亦敬我

己人之親を敬ハ人亦己が親を敬ふ

己が身を達せんと欲する者ハ先他人を達せ令よ

己敬人之親人亦敬己親

家語の賢君の篇ゟ人を愛するハ先ち人こゝ〔ニ〕我愛する人ハ我ゟ敬むとゝ孟子を此我知

ハ人の親を愛敬する人亦其親を愛敬するといつゝ本文のこゝろ

とあるゝ仁ゟ礼ゟ義ゟ智ゟ皆人をあいまもるその也礼ゟ敬ゟ

人我ゟやまいそのあり人我あいまもるときハ人もまた我ゟ

あいも人をうやまふこゝ〔ニ〕我うやまふこゝろ

ハ孔なり○朱熹曰親を愛ー兄を敬ー君ゟ忠あり長

ゟ弟もる是我彝を秉といひー仁ゟ礼ゟ義ゟ智ゟ

欲達己者先令達他人

己が身のう〔ニ〕我達ー立身せんとおもふそのハまづ他の人の

う〔ニ〕我よくもるときハおのが仁の道成就もる也ゟ人ようく

まもるとき我そんともるなり家語ゟ富をまてよく人

我富もそのハまづしくもるとれバともまづしくぬそのなり

貴我をて人をうとくもるそのいやしくもるぬそのなり達我をてよく人我達もるそのハ窮せんと

あるゝどもゟ窮せぬそのあるとのり○論語ゟ夫仁者己我立んと

欲ーて人を立己達せんと欲ーて人を達もとのりをこゝ也

見他人之愁即自共可患

聞他人之喜則自共可悦

此段ハ註釋をまつべきこゝ也やもりまハ本文我文ーそこ〔ニ〕

あるゝ世人の情人の上ふあーきことのまバおのまバ我ゟこゝろ

ようこびよきとあまバそねそしるが性ゟの人のあーひこ

あふひさまーうくぞや患を喜ゟ人とともふもるが人こゝ

の禮義あるゝ○論語ゟ子是日ゟあるそ哭ーるときハ歌ぎ

うくこゝろこゝ也他人とともひ我とをふーくものなり又子人こ

歌て善ときハ必ぞうせ我文せーるて而後ゟまゟ和もとのり

そをそのようこびをとをふーくものなり

善を見て者
速ふ行ひ
惡を見て者
忽避よ

善を修むる
者ハ福を蒙
譬バ響の音
ふ應ずるが
如く
惡を好者ハ
禍を招く
宛身ふ影の
隨が如し

見善去速行見惡者忽避

人のよきこと我あも我こゝろのよきこと我行ひ人
の惡事我なまをこゝろそのとゝろ我のうまこゝろ
○論語お曰三人行つるとき八必我師ひろ其善者我擇て而も
こゝふ從ふ其不善者我バ而もおき我改む

修善者蒙福譬如響應音
好惡者招禍宛如隨身影

よきこと我修行むるこゝろのふハ福報をうくることたとへていまだかゝ
なるのひゞきのあのごとくそのふハ禍報をうくることたとへていまだかゝ
者ハさゞひびきまゝくと身ふしたがふ影のごとしまた善我施せバ福追惡我為バ禍響の音ふ應
じ影の形を追ふがごとしとつるのまゝなり○雲書大禹謨孔安
國が註ふこの歎の語あり云ふ暑も

富めりと雖
貧を忘ゝ
と勿ま
貴と雖賤を
忘ふと勿
ま
或始ハ富で
終貧く
或先ふハ貴
て後ふ賤

夫習難く忘
易ハ
音聲之浮才

雖富勿忘貧雖貴勿忘賤
或始富終貧或先貴後賤

明心宝鑑ふ太公云己我貴とて人我賤となゝま自ら大ふみうと
して他我小ありとまることなかれハこのとなり財宝ふ由さ
うある人ゝもは祈ふまづきざるとき八ながく富我も
つゞまた位うとき人のいやしき人ゝをかろしめざるふ上ふ
みてあごらざるあり次の句のこゝろひハさにあり○ふとそてるのごく八
ありしくゝもはいふハまづしくゝもありまさまゝ人ふハいやしく
うとくいせいのりて人ふうやまはしてる人ゝをのちふハおそろて
いやしきひとゝなるをもありそを貴賤貧福ハはるかなる

夫難習易忘音聲之浮才

そのふのごとく盛衰ハ寒暑のさゞひふうつりゆくがごとし○
易ふ君子ハ安而危我忘まじ存而亡ることを忘まじとうり

又學易く忘
難ハ
書筆之博藝

但食有バ法
有
亦身有バ命
有
猶農業を忘
不
必學文を廢
ると莫

又易学難忘。書筆之博藝

声ふめ一ハ絃つりてこゝろみるなどハなし〳〵そもむづ〳〵てまひ
まやまきこのなりこまと絃音声の浮るオといつなりまきをめ
けいこまるときハやまく〳〵てのちまでをまひぬるの八書筆の博
藝とてその絃かく〳〵道あり博藝とハひろき藝なりとゐめくるなり

但有食之法。亦当有命

食と八朝夕の食物なりその食ふ法ありこゝろをそもく〳〵の身ゐ
なんづき所作の法ありて缶をゝこゝろその食ふよりて身絃
やー命をもこゝろをまふくるゐり食絃
そのハなく〳〵こゝ絃やー法八食をまふくるゐり食絃
こゝまふくるハ世絃ゝ〳〵る法ふあり猶農業絃忘まざることそ
耕一芸一て五穀の実のること絃そもやくふおゐべしと

猶農業を忘不

おこゝることなくゝの食物絃まてざるがごとくふおゐべしこゝふ
農業と学文絃對句ふ出せるハゝをふ天下の重宝なるまバゐり

必學文を廢ると莫

なり一切生民こゝる農のちゝうそそぐゆへふ士農工商の四
民のなゝふをも農を士のつぎふおゐりつぎの句ふ必学文を廃
もることなるまとハ学文なりまバ道ふくゝきゆへなり学文の
道ハ家を齊一身絃修る道なるまバいづまの人ありとをはとめ

故未代の學者先此書を案ず可

故未代の学者。先此書を案ず可

前文絃うけて故未代の学者とハのちゝの代の初心乃
学者絃りへ此書とハこの實語教絃さもなりいづまも学文
の道ひろく儒書ふハ聖賢の經典諸史百家の書とゐ一うゝぞ
佛經ふハ諸經論歴代の釈義ゝうふくゝしくゝきあるの
なまどを初心のゝりゐふハふまうふ會一ぐゝきねどふまゐ
この實語教絃思案まべしとなり

是學問之始身終勿忘失

是学問之始。身終勿忘失

是とハこの實語教をさ〳〵てよハひ〳〵ぞこゝを以学問の始として身を終るまで一生のあひだ聖賢の教を忘れ失ふまじと
なり○論語曰子路身終まで此書を誦も謝氏が註ふ云子路ゞ賢こゝふ止まるべし云ふ是身終るまで誦るときも
日新ふ進歩くんふ怠故ふ激してこゝを以進むとあり
こゝをもつてこゝまでバ初学の者此書を以もつて先とし日新ふ
志ゆ激して学問ふ進むべきものなり

實語教終

訓點讀方

矣此字ハ助字といひてよむもよむもよし一篇中ふ此矣字のりの圏をもつてるべし

初学の者ゆて素得おくべし

夫文ふ助字あり

禮ふ儀あり樂ふ相あるゞ禮儀をけまバ行ハれ樂ハ和あるまバ諧のぞ文ふ助字あるまバ順あるまバ文句のさゝふ用ゐるところの字あるところふづし

童子教證註

江都　振鷺亭貞居　著

此書題して童子教と名ばくるとハ廣韻ふ童ハ獨ありいへざるこゝをの名ありとひくるこゝまでハ年もちふなるを以ふ初冠まるゝ禮なりそのよし禮記ふ云〳〵ゝり釈名ふいはく十五以童といふかるゞゆへふ禮ふ陽童あり牛羊の角なき以童と山ふ草木なき以童ゝゝり童子以梵語ふを拘摩羅といふ漢土ふてハ和訓ふハ倆子こゝ一ゝりつゞきふ教とハ王篇ふ教令るゝり誨なりとあり教令のときハ人ふおひてより下知まる意ありこゝふ誨の字訓のときハおしゆる意ありて斯書ひらきやう童子ふ教るの義なり一本曰五大院安然和尚洛陽ふ居住ゝりしときふ童子以あまのこゝのつを手習ひさせ書以よこゝてひさ〳〵く年月以経るをとふ

夫貴人の前ゟ居てハ顯露ゟ立とも得不ま

道路ゟ遇てハ跪て過よ召事有バ敬て承ま

兩の手を胸

夫貴人前居。彩露不得立

遇道路跪過。有召事敬承

兩手當胸向慎不顧左右

不問者不答。

あるとき此書状作りそへて童子等ゟよもやまめらをこゝろのゆくやうにとなり

夫とハそうらんのことバなり貴人とハ位ある人なり彩露とハ我ゝらぞ我ゝらとよびきく人をさしていうなり顯露とハあらハるゝ事なり父兄主君師匠おとゝの前ゟ居まするときハひのくゝふるまひよく禮義を知さゝやうふよく禮義を知さゝやうにとなり

めとなりこゝ禮法を守るハ人の人たる所以なればまづ先ゟつゝしむべきなり

ゟ當慎で左右を顧不ま

問不者答不バ仰有者誰で聞

まゝ貴人ゝる人ゟ道をゆきゝするとき禮を知てもきよとなり

ひのくゝバいかなる事も敬ひてその事を向とひるハ左右の手紙くゝひのせそのむねゟ當て左右を見ずして左右紙ふうろぐ〳〵人ゟもきようろぐ〳〵問たまゝ紙もちてこゝふとあり○禮記曲禮篇曰先生ゟ道ゟ遭バ趨て正立て手を拱く又云凡奉者ハ心ゟ當又云問ざまバ敢て對ずまた云問ときハ終て對とありこゝもくゝの語ゟよりて禮義作法をいふなり

三寶盡三

三寶ゟハ三禮紙盡し神明ゟハ再拜を致せ人間ゟハ一

三寶盡三禮。神明致再拜

人間成一礼。禮師君可頂戴

三宝とハ佛法僧の三ツ紙いつゝなり神明とハ宝といふそしてこゝろまこハ佛ハ人中の宝なり一大藏經なごハ佛法の宝なり僧ハ戒行

禮拜成
師君拜ハ頂
戴を可

くぐりきハ僧の宝性論などの中ゟくり〳〵くのっせう
三禮拜ハ又三拜ともいひ出家の三拜をする事ハ身と口と
意と三業とそうやまふ心が本ゟり身と口と拜ハ末とするがゆへ
かぞへるなりつぎゟ神明と八佛家ゟりいたゞ佛拜本地と
一神を垂迹ととこゑ拜和光同塵といて両部習合乃神
なり一説ゟ三禮再拜ハ本地と垂迹とのかそうるりこゝろ
唯一の神道ゟてハ禮拜の時ふたゝび柏手拜うつ由（再拜）と
いふ神ハ天地の二氣なり人を陰陽の氣よりうまれ生ぜる
二氣拜かさどりて再拜をするなりいまこの童子教のうへに
ハゝて佛神拜崇ることなりとゝるべし一ツのなかち二禮二拜
の次第拜沙汰をなりつきゟ人間ゟハ二禮なるせ
とハ通途のあゝくなるなり又師匠君ゝる人拜ハ頂戴
ろうゝふさゝげいたゞくとふうやまふ意〳〵となりかくお
えんぎ拜九拜三拜再拜といふなり經の中ゟ佛足頂禮
とゐるをこのことなり

過墓時則慎。過社時則下。向堂塔之前不可行不浄。向聖教之上。ふこの敬無礼

墓拜過る時ハ則慎め
社拜過る時ハ則下よ

堂塔之前ゟ
向て
不浄拜行ふ
可不
聖教之上ゟ
向て
無禮拜致も

墓拜ハ人の灵位拜ところなゝ〳〵とそのゝち拜時ハ
無禮拜なさゞれ法〳〵ゝうやまひてもぎよとゝるりまゝ社とハ
神拜まつるところなり本朝ゟて所〳〵ゟ鎮坐をるところ乃祭
神をさしていふなりいづれをそのまゝ拜をぐるときハ馬のり
そのようもあり禮をするてゝるをとなり○禮記子路曰吾聞
墓拜過るときハ式社拜過るときハ下とゐるハこのとゝるり

堂塔とハ葛洪が字苑ゟよび切韻ゟ塔ハまるみち佛乃堂なり
佛の塔廟ありとゐるり不浄とゐるハ大小便利のさゝびくさゝふ
おふ〳〵て佛閣のゝとゝ拜けがすべからずとなり優鉢祇王經ゟ
伽藍法界内地大小便拜けがせバ五百生枝波地獄ゟ墮とゐる

可不

人倫ふ者禮有
朝廷ふハ必法有
人と而禮無者
衆中又過有

こゝろなり聖教とハ佛ぎう等のあ〳〵ゝ儒道そ
ハ大聖人孔子のごときあ〳〵ゝて聖教といふべき
あそこを聖教のまゝふむひこまゝゝよもときいふやまひはし
んで無禮ゝゝいふもまたきとなり

人倫者禮有。朝廷必有法
人而無礼者。雖中又有過

人倫とハ天下の万民ゝゝゝ諸民禮ゝゝまもりて人とふひ
ふうやまひゝゝなせバ君臣父子夫婦兄弟朋友の道ふのづゝ
あさゆりて天下ゝゝゝなり天下國家ゝゝあさめふの一君ハ
かなゝゝぞ法度定規とある道ひるそのぞるゝ更ふ禮ゝゝを
よゝゝ天子のゝふまろふよふおこるひそさまゝてその法ゝゝ諸
侯卿大夫士庶人まで
まてゝゝふハ下万民ゝゝゝる無禮のそのとあるゝゝこまゝゝ人
倫ふハ禮あり朝廷ふハかゝるゝゝ法ひゝとゝいふゝゝまふ次の

句の人ゝゝて禮なきと紀ハ乱のそゝゐるなりまふさ衆中ゝも
ひやまちがいできて罪科ふおちいるそのゆゑバよゝゝおゝ
そきはゝゝめよやとなり孔子そその本ゝゝまゝて未おさ衛る
ゝゝ

交而不雜言。事畢者速退
觸事ふ遠明。言語不得離

衆ふ交るとハ人のあゝゝくなりまふさるなり交りてハむきとその
いゝぐゝぞとバあきハひゝそひのそゝいて身ふそぎひゝゝ
うけるそのなり家語金人銘ふいはく多言そることなかれ多
言ハあゝゝやゞゝとあり又事畢バさゝやふさきとハ會合
などの坐ふはゝゝゝなゝゝバその事おそるときハそやくさちさる
べゝ坐ふなゞゝみそもやゝのことにてゞさゝきをバことばのひやま
りるどようはゝふハ口論をできるそのなり次の句ふ朋といふ
ハ周禮の疏ふ朋ハうとゝゝふゝゝて友ハおゝゝふゝゝてあく

衆ふ交て雜
言不
事畢者速ふ
避よ
事ふ觸て朋
ふ違ぜ
言語離るを
ゝ得不

なんどとくさ〳〵公羊傳ふいそ〳〵門をあるゞまち紙朋といふ志紙あなの一ふまち紙友といふ字るまでも親疎のこゝちはりさくふハこをどちのこ紙朋友とゝゝろゞ〳〵いふこゝろハをもまゞ〳〵るまこゝろざさるとも其のこゝろふそむうぬやうふせつのこゝろ紙ろぎとハ朋のことバとよく相應して和合そやう〳〵ふそのいつぐ〳〵かくづつのそあまこゝろこと紙い（八人乃ことバ紙けしてひきるう論語ふ晏平仲善人と交久〳〵て敬をこあり次ふ言語そるとも

語多者品少。老狗如吠友

語あろきハ品をくるしとハことバふかざりおろきそのハ心ふ實なり〳〵道ふそむりロふいつぐ〳〵ふそのまゝ用ふをなり〳〵ざる也品をくるとハ孔子のさまり〳〵君子ハ行紙そつゝそのいひ小人ハ舌紙そろてものつゝをこのいひなり君子そ人ハ身のあこるひ紙きゝてゝゝそそのことバまをこちふあり〳〵ざる義ハふとをゝ又小人ハその身ふハ道紙あふなふ

懶急の者ハ食紙急ぐ疲さる猿の菓紙貪が如し

勇者ハ必危を有夏虫の火ふ入る如し

こともあり〳〵口ふまりせてあのがのきこと紙かざる也道理ふけたびひてむやくのことバりつふみるり次の句のこゝろハ逸物のそあゆハ盗人のまそうとをもるまでゞ狗のう〳〵ありてあのがともる紙ろ也るハかまびもしきバうまそ何のやうまなり〳〵をと小人のむやくのことバ多きふそこくるあり〇離騒經云人ハ多言紙以て善とせび犬ハ善吠紙以て良とせざ

懶急者急食疲猿如貪菓

けぐいとハなもまさる紙をせびいつ法〳〵ふまこる紙いふこの急いつぐろうぞやつるふハ身紙らしるひ家紙をろろり〳〵て朝夕の飲食ふありま紙はうまてる猿ふそうかまこぐ菓紙貪ていそがしきことけぐいのまの似ようとあり〇出曜經云譬飢る猴猿の熟甘〳〵あら菓紙望見るが如く身胃紙前棘ふ投ぎ

勇者必有危夏虫如入火

鈍者ハ又過無春鳥の林ふ遊が如し

人の耳ハ壁ふ付密而も讒言

鈍者又過春鳥如遊林

勇ふ仁義の勇血氣の勇とそふろのりり仁義の勇とハ忠節ぢふひて功名ぢまつふ義ふのぞんで命ぢおし節ぢまつて名ぢのこをぢいまさ血氣の勇とハ心うまく仁義ふく智謀をふくさ強ぢなのこ命ぢかろくふひてそひたるこふハ血氣の勇ぢさ好ぢいふりこふハ血氣の勇ぢさりてふりその血氣ふまやるをのハふるく危きとあうほとのいつるをこのこふろふのうまさ鈍者ハ人つそやまくひやまちぢもいざさびこころあさかふ春の島のひそぶごとりこまハ愚ぢまをもとのあり

人耳者付壁密而勿逸言

人眼者天ふ懸而勿犯用

人の耳ハ家の壁ふ付てひるものところ〳〵てきこまりまる人の眼ハ天のこそふハーこまふごろくまバかくをことて悪事ぢ犯用ことなきをとふうそひ人がふ孫バとてもぬといつとハふきふ居てひきくとひるほどふ志ぜんとーきう楊震が四知をといふをこのごうまなり

車ハ三寸の轄遊行千里路

車ハまづふ三寸の轄ふそ千里の路ぢもきうひまるをひとくふくさびの功ふりと人のうたとくこうふ人ハまづふ三寸乃舌のひやまりより大ひふるもざハひ ぢひきいざー五尺の身ぢも破損をるとふり〇論語子曰人として信ふくんバ其可ふること知ぜ大車軏ふくんバ其何以こま ぢ行哉このこと鶴林玉露ふ堂堂ふる八尺の軀三寸の舌ぢ聽ことなるをといふ

人以三寸舌破換五尺身

詩にうまく史記の張良が世家ふ云今三寸の舌にて帝者の師にうまく素隱ふ云舌ハ口ふ在て長三寸斗王衡ふ象る

口是禍之門舌是禍根身敢妄事

使口如鼻者

人をろくの悪事にいざなふ口より出入をるなれバこと〳〵く禍の家の門戸ゐたとへていふなり口ハ是禍之門といふなりまた舌ハそのわざひの生ずる根本をろがるが如くなれバ根ともいふなりそこの口にて鼻のごとくをのいちぬものみにて おゐぞ身の終るまで敢てさいなん悪事ハなるまじきとなりつゝしてとハけつぞうのことバなりげつ〳〵きことハなり行基菩薩の口の虎身にて害〳〵舌の勅命にて絶口をして鼻のごとくなる〳〵ゑバ死して後処をらず〳〵といふこゝろなり○家語云誠ふ能慎ハ福の根なり口ハこゝ〳〵何をら傷る禍の門也といふまじくよく口舌にわざひを招ぬをもとむべし

過言一さび出者駟追不返舌

出者駟追不返舌

過言とハとバのいひ損じのやまりなりそのとバひとそびロよりいづればとく駟馬といへども追ともその舌にて追ひくまことをうむまじ

駟とハそろ〳〵まそ車一乗ふ馬にて四疋ゐてひくをもて駟馬とハいふなり古今韻會ふ覚賢が説ふ論語にも引ていふく駟も舌ふ及ぎとハなり按るふ舌にて返さゞるの字ふ及の字ふ通ずるをもてこゝるぞ〳〵といふなり○劉やまのまるう返の字にて返さゞるの字ふ及の字ふ通ずるをもてこゝるぞ〳〵といふなり○劉子ふ云一言の失るときハ駟馬を追ぜ慎ばんバなるべし

白圭の玷さるハ磨可悪言の玉ハ磨難

白圭玷可磨悪言玉難磨

白圭とハなろき玉ふきずありてハ磨ぬまバそのきずをくまでをそのごとくなきこゝろふるるあるまじきぞハいふなりとも人のことばのびをもとの玉よハなり詩経ふ白圭の玷ふ。ハ

福福者門無
唯人の招所
ふ在

天の作る災
ハ避ぬ可
自作る災ハ
逃難

尚磨ゞ斯言の玷ある八爲ゞと白圭の詩ゟ
南容一日ふ三ゝびづくりくりくりくりてよゝ
孔子そのこの子ゟ妻ふ
ゟ

福福者門。唯人在所招

福も福も門戸の外よりきたるふハ唯人のこゝろのう
善も悪もまねくなり左傳ふ閔子馬ゞこの語ゟいう

天作災可避。自作災難逃

天のなせる災とハ水火のふこるとまこと旱疾といつて
ひでりのまざハひ流行病などの人ゟそんぎるごとく
この天災ハいつこんその
のりをゞゞとゝり書経太甲云天の作せる孽ハ猶違ゞ
自作せる孽ハ逭ゞゞといへる語とあるゞ

夫積善之家
ふハ
必餘慶有矣
又好惡之處
ふハ
必餘殃有矣

人と而陰徳
有バ
必陽報有矣
人と而陰行
有バ

夫積善之家。必有餘慶矣

又好惡之處。必多餘殃矣

積善とハ善ゟ積む家なりよきことゟ積るゞハ金銀財寶ゟ
つむようゞゞるごとくにて天の祐ゟ獲るゆゑ餘のさい
わひのてなゞく子孫ふさかゆるなりまゝ悪ゟ積むところ
ふハうなゞゞ天のわざわひなりねるん
きさゆゞくの殃ひるとゝり易文言ふ曰積善の家ふ必餘
慶ひり不善を積の家ふハ必餘の殃ひりとみゝり

人而有陰徳。必陽報矣

人而有陰行。必有照名矣

陰徳とハ人ふひのゝハゞゞ内ふふくゝて善道ゟあるひるゟ
なりこのゝくまる徳ハ人ハもゝざるとゞも天道ハひきらゝ

必照名有矣

信力堅固の門ハ災禍の雲起と無念力強盛の家ハ福祐の月光

信力堅固門災禍雲起
念力強盛家福祐月増光

信力堅固の四字ハ法華経方便品にそなり信心ハとゑかきめくる人のいゑハまさりひの起るときぞとなり災禍もまさりひとよむなり海篇犀焔ハ災ごゑ哉天火なり禍もごゑ貨災害なりと念力強盛とハ佛神ハ念ずるカの

めをゆゝ陽報とてかるゝそのさいさひの報ハねどこゝろまゝなり司馬温公が家訓ふも陰徳ハ寛このなのふ法くゝて子孫長久のそうごてるさんふハろうゞとくゝ次の句の人とゝて陰行ハ必照名ありといふ語ハ淮南子の人間訓ふこゝろハ陰行とて身ふはこゝて道ハねどもうるゝ名聞らゝく人ふかゝら祇どもうるゝ名ハ實の實と荘子をゝり

心の同不ハ面の如ゝ
譬ハ水の器ふ隨が如ゝ

ほよくさんなる紙いなりそくるなり易ふ大有の上九天よりことゝなりハ福祐ありひくゝる利せざることゝなりハ福祐ハさいりひなり祐ねどもうるゝ名ハ實の實と荘子をゝり

信力堅固の四字ハ法華経方便品にそなり信心ハとゑかきめくる人のいゑハまさりひの起るときぞとなり災禍もまさりひとよむなり海篇犀焔ハ災ごゑ哉天火なり禍もごゑ貨災害なりと念力強盛とハ佛神ハ念ずるカの

神代巻等ふ神のさいさひせざる紙いなりそくるなり易ふ大有の上九天よりことゝなりハ福祐ありひくゝる利せざることゝなりハ福祐ハさいりひなり祐ねどもうるゝ名ハ實の實と荘子をゝり

心不同如面各如水隨器

人の心とりゝそのハ千万人ありといへども人ごの面のいろくゝりなると同ゝまさゝ人の心ハ水ふゝくゝてゝ器とハいまゝそのあり水ハやハらゝなるそのゆゝ方あるゝそのふゝてゝ角ふあり円あるゝそのふゝてゝまゝくるまゝり人のこゝろもそのごとく善悪のそゝろゝ

ねりやもゝこと水のうゝハそのふゝてゝごとゝ

左傳ふ子産曰人心同ゝごとゝ其面の如ゝ吾豈敢子ふ面ゝ祇吾面の如くゝるまゝと謂乎後漢書ふ尸子云君ハ杆の如ゝ

他人の弓𢌞不挽他人の馬ふ騎不

前車之覆𢌞見ては後車之誡と爲前事之忘不

不挽他人弓不騎他人馬

前車之見覆後車之誡爲前事之忘不可不慎

民は水の如し杆方あるとき は水も方あり杆圓なるとき

こゝまでは他の人のざうぐ𢌞や馬ふかぎるべからずなるそもかくのごとくさうぐ𢌞一明心宝鑑ふ太公武王ふ謂ていはく他の弓𢌞挽こと𢌞好𢌞七奴とも他の馬ふ騎こと𢌞愛ふ𢌞八賤とも無門関ふ他の弓𢌞ばひくことなかれを他の馬ふハのることなかれといつて他の非𢌞ぬすむことなかれを他のさざ𢌞もることなかれといつて

車の字𢌞しやとよめるハ𢌞きよとよむし書言故事の注ふ車の字𢌞バ居のこゝろふよそとなり論語の大車小車の

𢌞バ後事之師と爲

ごとしきよのこゝろとしやのこゝろとふよこゝろつこと皇朝類苑ふくハ一書言故事ふ前代の事𢌞かんがふる𢌞覆車のいましめとなりとなり晏子春秋ふ諺曰前車の覆てハ後車の戒となりこゝにハそろこゝのせるふみつことバかりこのことまで漢書乃

賈誼が策ふをなり卓氏藻林ふ後車ハ駟車なりといつて本文のこゝろハ前一ゆく車のこゝろをとりてたゝをくつぐらぬ𢌞後車のいまゝめといふなり次の二句のこゝろハ文選の勧進の表ふ前事𢌞忘ぞ後世の元亀なりとひることく前ふる𢌞ら事𢌞忘ぞ後の事のこゝろをとりてハ物ふのやまちなく後このこんとなりおよそこのいまゝめとなり周の世よく天下𢌞おさめ𢌞よかりこれ國殷の紂王をとの悪王世𢌞くつぐゝるハ文王武王成王をの𢌞バあきむるの師範万代の亀鑑なり

善立而名流寵極而禍多

善立とハ善道をよくおこなひて徳のある人ハその名ながく末
代までも流布すると也次の句ハ寵愛きハまれバかなら
ずこゝろおごりて悪事おほくなすにハまさりひとなることその
なり史記の韓非傳に衛の弥子瑕がきみの車にのり桃のあ
まりをきみにまいらせてあいおとろへてこの二ツのこと大ひ
なる罪なりとて誅せられきぬてうあいのきはまりハおほく婦女
よりおこれり北齊の高緯帝ハ潘妃といへる美人をあいして
周の武帝にほろぼさる周の幽王もきさきの褒姒をあいし
て国をうしなひ唐の玄宗楊貴妃をあいして安禄山がむほん
をもさとらずつゐに位をうしなふにいたりてうあいきハまる
ゆへにおほく禍をまねくなり列女傳に陶荅子が妻の云
そのきハまりてかならずなげきあることあり禮記曲禮に曰おごり
をばまんずべからず欲をばほしいまゝにすべからずこゝろざしを
みつべからず樂をばきはむべからずとあり漢の武帝の秋
風の辞にいはく歡樂きハまりて哀情おほしとてうあいおと
ろへてかなしみをうくるその和漢ともにその例すくなからず

人ハ死而名を留め虎ハ死而皮を留む

○長門本平家物語に祇王祇女兄弟の者の佛といふ女にこゝろをそへて清盛のてうあいおとろへ世の中をすてゝ嵯峨の奥ふかくこもりゐしを佛もむすびおこなひもましてたづねつるが佛もいつかはるのおとろへぬべきことをさとりて祇女が菴室にまいりさまを發心して尼となり源空上人の佛門に入て後鳥羽院の文治五年二月十五日佛祇王祇女母の刀自大往生をとげしといひつたへけり

人死而留名。虎死而留皮

人ハ死してからだハくちゆくとも名ハのこるそのなをバ美名を後の代につたへ汚名をのこすまじきぞ白氏文集にも龍門原上の土に骨を埋名を埋ずといへり格物論に虎ハ山の獣の君なりかたち猫のごとしおほひなることうしのごとく黄なるかざりちくろきあやありといへり虎の子を豹といふ李時珍が本草綱目にかたちとらに似てちいさしそのいろやもいろどること錢のごとくなるのを金錢豹といふ裘にはぐる毛をしといへり虎ハ死してもその皮のこごとなるゆへ用ひらる人としてハなを功をなして死してその

國土ヲ治ル賢王ハ鰥寡ヲ侮ラス勿

君子人ヲ譽メサレハ

治國土賢王勿侮鰥寡矣君子不譽人則民怨作矣

ちふその名ヲそむむづきそのなり韻府羣玉ふ王彦章が人ハ死して名ヲ留豹ハ死して皮ヲ留とつるふあるべし

賢王と八聖賢の法ヲまもり政ヲ行ひ給ふ君ヲいふあり書経ふ文王の徳ヲ称してよく国家ヲおさめ給ひしのなどもとみつゝ鰥寡ヲ侮らふ罪ヲ論じ給ひしのとハ大ちがひ六十ふあまりてハまだおとこやもめヲ鰥といひ五十ふなりてあつとあきをんなう○孝経云國ヲ治ル者敢鰥寡ヲ侮ラス而況士民ヲやと孔安国が注ふ云鰥寡の人八人の尤疲弱にそのきびしき政ヲ行ふ窮て告とるき者也とこゝろなり王制ふ鰥寡のことわり此天民のいつくしみそだつるこゝろなり

君子ハ人ヲ譽メサレハ則民忠ヲ作ス矣

君子と八成徳の名なりと朱子がつゝ万葉集ふそ君子のことヲ淑人といふこゝろふ道ヲ得る王者ヲいふなり人とハ民百姓ヲさしてつゝ君子ハ方民のよきこと善ヲしてハおろかびまぐれそき善ヲしるこゝろまでをくときハ民ろ〳〵こゝろふありてとなりろ〳〵まなびてめぐまれ子ふるひとハロあてけいそくふ人ヲ誉ることハ民ハ忠節のこゝろよりまことの真實底ふるうびまるこゝろにて君ヲうやまふなり禮記のこゝろハその理ヲきゝふみてふか〳〵意味ヲ味ひ童子教の文ハその義ヲおそろ〳〵とさめてあるべきまでと上文ヲ君子とあり君子ハ口ヲ以民ヲ欺くそのふけいそくふ人ヲ誉めあるふけいそくのこゝろなきことあきらけし論語ふ子張が政ヲ問ふるふ孔子のさはふく君子ハ恵まずとこゝろ費ヲ勞ヲまずとこゝろ怨ヲとふることヲ君子の民

境ふ入而ハ　禁ㇾ問　國ふ入而ハ　國ㇾ問　鄉ふ入而ハ　鄉ふ隨ひ　俗ふ入而ハ　俗ふ隨ひ　門ふ入而ハ　諱ㇾ問　主人ㇾ敬ハ

ㇾめぐむなりまた朱熹が註のなふ項羽人ㇾたりて封ぜざきふ印ㇾ刻てあざり刓まざるなり君子とハいはぞはみふまりて敗ㇾざるとハいはざるとハいはざるべし

入境而問禁。入國而問俗。入鄉而隨俗。入門而諱。為敬主人也

君所尊無二尊号也

他國の堺ふ入ときハまづ制禁の事どもㇾ問ひその法度ふそむかぬやうにまづ國ふ入てハその國のならひ俗ㇾ問ひ鄉ふ入てハ一鄉の作法ふもとづき俗とハなべてのところのなべてひろくぞくふべし　とあり人の家の門ふ入てハその家のㇾ問門ふ入てハ諱ㇾ問公諱ひり家語ふ云天ふ二日なく國ふ二君なく家ふ二尊ふし

愚者無遠慮必有近憂

こゝハ論語のことばなり子曰人遠慮なきときハ必近憂ひりこいへり蘇氏が注ふ人のふむところハ足のひろる外ハこゝるむやうのなり千里の外ㇾをありまどもいまぬまゝにてまぢかきそのゆゝハ地ありまどもいまぬまゝにてまぢかきそのゆゝハ千里の外ㇾをありまどもいまぬまゝにてまぢかきそのゆゝハ足下ひろそうまひがしめつらいまぢしとなり憂とハまんまることなりこのひろんなるㇾ愚者といへなり

如用管窺天。似用針指地

人ㇾ爲也

君所ふハ私の諱無二の尊号無也

愚者ハ遠慮無必近憂有可

管ㇾ用て天ㇾ窺が如ㇾ針ㇾ用て地ㇾ指ふ似さ

り

神明ハ愚人
ニ罰ヲ
殺ス、非ヲ
懲令ガ為ヌ
り

師匠ノ弟子
ニ打ハ

管ハ法ノことなりくぐのひかより天ニてハ天ハちいさきこそのと
ありハ針ニ地ふさーてそて地ハあさいそのとおりハ天地乃大
ひあること知ろ〳〵ぞおそいぐちゑのせばきこそふ為ろくろり
そのごとく愚者の思慮もるところハちかくひさくーてそれく
ふちきおろんぱくりハなるこなり○荘子曰管ニ用て天ニ闚ひ
錐ニ用て地ニ指をニ亦小ろ〳〵ぞや

神明罰愚人非教為懲

あ〳〵ふ神明といふハ本朝鎮護の神ニよりて日本記神代巻ニ
曰諸の不順鬼神ニ誅とふくいふ神明ハ邪悪ニなきをの、ハ
罰ニあふくらるまごとをそのあろうなる人ニ打ふくむおそ
ひ〳〵ぞそのはふ〳〵ニ打ふくこていまーめのこめなり易ふ勧善懲
悪ひふ孔子ニ郷人の善きをのハこをニよふんーそのようざる
ものハこをニ打ふくむといふり

師匠打弟子非悪為之

弟子ニ打ふいふ字のこころハ師匠ふらいーてハ弟子ろりとふ
ニてあること師匠よりのちるゆふ弟子ニ打ふくこていまーめ
そのこころのさとり師匠より生ずるゆふ子ニ師匠ニ打ふくこ
親のごとくろやまふゆふ弟子ニ打ふくむ師匠ハ親のおりひ
ニあるをゆふ弟や子ろるをのひーきニ打ふくこていまーめ
ごきろーやくなく打擲ニあハふくむふひーまいふりーて
よろこものふおさんとあり孔子原壌が足ニ打るげいざ
て無礼ニ打るーなまバ杖をもてうちれーとひうことを原壌ニ
ふくこてうふひーぞ道ふそむく打擲ーふゆふ仏ニ
ひーきをのハちやくせよと涅槃ニ拾ふときふまへり

生而貴者習修成智徳

聖人ふひーぞまバうまれながらニてをまるをのハるきこなり
がくりんーなーひ修ーて智徳ニ成ーぞ貴ぶべき人となるこの
論語ふ学でよりくーこをニ習とひり朱熹の註ふ習ハ鳥乃
をのごとくろくろり程子曰習とハ重習ろうよりく

悪ふハ非ヲ
能令ガ為ヌ
義ありまひとを
り

生而貴者無
習修智徳成

貴者ハ必富
不
富者ハ未必

貴者不必富富者未必貴

貴者と八位ある人ハ富者と八財あるを云ふ位ある人ハ必ずしも財あるにあらず財ある人ハ必ずしも位あるにあらず源信大師要集曰富者未必貴貴者不必富

○覚賢が抄書ふ聖人ハむまるるがふしてむまるるにふ習修まるるあをあよばざるんで道ふうなるみハ賢人なりこまをハ一ぢう世間の儒教ふもちゐていふなり出世間の道ハ精進の修習ぢそとそまるなり般若の智徳もこのをともむるよりうまるなりといふ○礼記ふ云天子の元子を士なりうまるをハ天下生るがふまりて貴者なりとうまるをハ本文のこころなり愚謂仏書ぢこるふまりて智ぢ弟一ふとりり儒ふハ仁の道ぢ至て大なりとまり経書ふ仁ぢさきとそこのさの童子教ハをと仏典ふよるゆへふ智徳ぢ貴まりとかるなり孔子曰生るがふまりて知まる者ハ上なり学で知者ハ次なりとのまハ智徳ぢ成ハ儒ふいたゆる成人といつべまり才智礼楽備りくる人ぢ成人と称まと孟子もいつりまるてふときやうなるをともかるべ金銀ふとぞまきことなり

貴未
未この字二どうへてよむべし
富りと雖心ふ欲多ハ是ぢ名て貧人と為

雖富ん多欲是名為貧人

雖貧心欲足是名為富人

金銀財宝ふ富とそも足ること ぢ知らざる人ハ欲心ゆゑくそのうへ〳〵このまゝくまゝろ不足にて ぢふ愁あるゑく貧人とまるなり

金銀ぢもてるいへ〳〵なる人ハこそくるおきやう〳〵位ふときハるきぞとるり源信大師要集曰富者未かるゑ〳〵寿ぎいのちなるきそのハ未必富をとい説なりこの童子教ハ富と貴とハ二りなゞ〳〵ゑ紀理ぢきとせり 孟子ふ陽虎曰富ぢをバ仁ぢのゑ〳〵ぞ仁ぢをバ富ぢをといつり白氏文集ふ高者ハかるゑ〳〵ぞ賢るゑ〳〵ぞ下者ハるゑ〳〵ぞ愚るゑ〳〵ぞとなり

富りと雖心ふ欲多ハ是ぢ名て貧人と為

雖貧心欲足是ぢ名て富人と為

金銀財宝ふ富とそも足ること ぢ知らざる人ハ欲心ゆゑくそのうへ〳〵このまゝくまゝろ不足にて ぢふ愁あるゑく貧人とまるなり

足ること ぢ知ときハるゑふりもとむるき憂もるゑ〳〵おゝろやそき ぢ福人とるゞく顔子の貧みて泰然とそてそのこゝろ ぢ

師の弟子ふ訓不是ㇾ名て破戒と為師の弟子ㇾ呵責を是ㇾ名て持戒と為

悪弟子ㇾ畜ハ師弟地獄ふ墮

うめざりㇾ孔子を賢哉回とふくるめうほうㇾ足とㇾ知ハ第一のこと涅槃経ふとくり

師不訓弟子是名破戒師呵責弟子是名持戒

此段ハ佛説ふよりてかりらく世教ふとりてうべㇾ師匠ある人弟子ㇾよく教訓して道理ㇾあり〔ざきバ破戒なり破戒とハ戒ㇾ破るのり呵責とハこうせむるㇾ弟子ㇾいりん〕して道ㇾよく弟子ㇾいりん〕ゆるㇾ持戒とハ戒ㇾうるのり菩薩善戒経とり師とて弟子ㇾあり〔いうざきバ佛法ㇾやぶりて地獄ふ墮ところ

畜悪弟子者師弟地獄墮善弟子者師弟佛果

悪弟子とハ此奈耶論云弟子ふ五事ほろバあくいうこと一ひとろふ不信二ふ不慚三ふ悪口四ふ悪知識ふちらばくなりというその内きㇾ五ふハ悪知識ふちらばくなりとハ師匠ある弟子をそそふ地獄ふおちいるやーなりをバ師匠ある弟子をそそふ地獄ふおちいるとうその内ハ師弟ともお嗔恚ㇾをやもつ又よきㇾ弟子ㇾやーなりバ師弟ともふこころよきㇾ内ふ佛果ふいたるとり

地獄とハ一切経の音義ふ梵ふハ捺落迦といひくるふハ苦器といふまた不可楽といひまた非行といふ非法行のところなりとうまた一義ふ云獄とハけごとの名なりへるふもあそろーきくちなりこの内ふをろうーまそハ罪人ㇾ牢の口ふ獄のくちㇾ閉てあくるり名義集ふ地獄ㇾ註ーて地ハ底るり下なりとくろう

教ふ順不弟子ㇾハ早父母ふ返可

和不者我冤
人と擬もき
バ
怨敵と成て
害我加ふ

悪人ふ順て
避不バ
縲犬の柱我
廻が如く
善人ふ馴て
離不ハ
大船の海ふ
浮が如く

師匠の教訓ふそむきて悪行我をん弟子我バそやくその
親のそとくくもぐしぜひともいりんしてもらそろぶめん
ともることるきやりうざるのふひのまかつて怨我をく
ご師匠我敵のごとくあり。て害我るんそのなりうざめんと
擬もきバとハ冤の字ちんざるとよそにおくひのそこころ
なり擬ハ議るりそのことハかよみくとよ義なり

順悪人不亟縲犬如柱
馴善人不離大船如浮海

悪人ふもてこうしてそのあーきと我ものがきさけざふみるハ柱
ふはなびる犬のくるひめぐりそのつるこぢりくなれバもざいふ
我身我せむるがごとくつるふハのーきとをどちのるもと災難
我うけるなりまで善人ふもとくーくしてそるまで孫バその身
の大るるカとなることと海我もこるふ大船ふのるが如ーとなり
佛本行集経ふはるる犬のたとへこくり

善友ふ隨順
をき者
麻の中の蓬
の直るが
如く
惡友ふ親近
もるまで都
藪の中の荊
の曲るが如
し

隨順善友亦如麻中蓬直
親近惡友亦如藪中荊曲

蓬麻の中ふ生まるまバ扶ずとそもおのづから直と曽子の謂るり
麻はぐるるそのなりこと我善人ふことふ蓬ハそのむまのそ
まぐるり悪人ふことふもとそも麻の中ふまぐるる蓬ハ麻
ふつまてもぐふるるそのなり人をそのごとく直ある人ふさ
ぐへあのづからこころをもるをふなるるりまくこのーき友り
ーしーこちづくときハ藪の中ふまくるる荊乃もまがてこ
ごくおのづから心をもまりぬくぞとこてよりて孔子曰己
ふ如者我友ともるることるるも益なくして損なるバなり

離祖付師習戒定慧業
根性雑惡鈍好自到学位

根性ハ愚鈍
なりと雖
好ハ自學位
ふ到

祖の字玉篇ふ父の父なりと和訓ふハあやまりふかぎりまもんるに一ぞく祇さして祖とのゝしきそ祇もるまてうとき他人の師匠祇
疎師ふ付とハもろ〳〵きそ祇もるまてうとき他人の師匠祇
とぞあやまりて戒定恵の三学祇なりとあり戒とハ和訓
ふいまゝ一えとよむなり戒ハ五戒八戒十善戒三百五十
戒などいひてあまたこのまこどを身と口と意と三つのとり祇
ふせぐふねりとかく身ふ口ふいふこるこ
なきことバ祇出さび意ふあく祓ん祇たくまぬ祇三学の戒
といふありつぎふ定とハ天竺のことバふハ三昧といふ震旦ふてハ
定といふよくひが本心ひとつ祇まもりてこもろ〳〵の悪念
ふうごかぬ祇定といふなりくハ〳〵ハ景徳傳燈録の弘辨
禅師の説釈氏要覧名義集などふ〳〵くりまもこ次の句のこと
ろハこゝひ根性ハぐとんなりとも戒定恵の業祇よりハ先
あのづう三学の位ふいたるべしとあり学位の学の字覚の字
と筆者のいやまりきるうそのゆへハ佛の位祇覚位といふなり
天竺ふ佛陀といふ祇ふもろこゝふハ覚といふ覚位といふ佛果あり

一日ふ一字祇學バ三百六十字一字千金ふ當一點多生祇助

一日學一字。三百六十字。一字當千金。一点助多生

一日ふ一字づゝなりともなるまぞ字学文学ふゆだんもまし〳〵きことのこゝろなり
但ふもろ〳〵ハ立春より来年の立春まで祇一年の日ごとを
さだむるふよりて三百六十日とあるなり日本ふてハ節分とより
節分まぞふ三百六十五日とあるされども本文の三百六十字満数
祇より又五言ふたぐめるなりさバで一年といふたりバかり祇いつまり
東坡が徐こと〳〵て、こゝを祇せバ十年ののちまふたゝ立ざうんこ
いひしごく学問の道ハふハふいそぎてを成就まることのし
なで久〳〵く祓りてまてぬときハ十年ふおよゞハ成就せぬことハ
あるきとなり次の句ふ一字の價祇直段せバ千両の金ふなるなり
づゝとなり史記の列傳ふ呂不韋とのふ人呂氏春秋とつふ書
祇ちくりて咸陽とふ市の門ふたくまる書物と千両乃金

一日の師不
可缺
況數年の師
乎
師者三世の
契
祖者一世の
昵
弟子七尺去
師の影不
可踏

一日師不缺。況數年師乎
師者三世契祖。者一世昵
弟子去七尺。師影不可踏

一日ありとも道ハ師匠とたのむべし師匠とたのむべきハそうやくおろそかにすべからず況年ひさしく教うけくる師匠の恩ハひとしく一世のむつびとなるハ大般若経の中ゟ出家の人ハ師の恩父母の恩よりもおもし一在家の人ハ父母の恩師の恩よりもおもし一とあり去ゟこのゆゑゟハ佛法修行乃道よりいふなり恩なり佛法の師ハ過去未来現在乃三世の慧命ハやーるゟ恩なり佛法ハ現在一生の身ハそうてとハ人の身のかげハ七尺おどさきバうつすなり長阿含経ゟ尸迦羅越経ゟハ弟子師ゟうけるゟ五事ハ釈氏の三世流転の説なのちぎり祖ハ一世のむつびとゟいふ事ハ三世ともバ味ゞくをのて弟子等世教ゟうて考ふるーー孔子弟子ゟ教うけゟ四ツハ以ゟ文行忠信ゟうけこまこ師さるのこちなり父母こそハ養育せざれハ長とるゟぞ師匠のおゟくふあゟざるバひとくるのこちハーるとるく主君の

觀音ハ師教
の爲ヌ
寶冠ヌ弥陀
戴く
勢至ハ親孝
の爲ヌ
頂ヌ父母の
骨戴き
寶瓶ヌ白骨

やしるひヌ父祖の業戴くそ〳〵ち宝冠とハ九〳〵のかみりなり観音
匠と主君の恩ハいづまでもひとそ〳〵く身命ヌすてはうまるべき
そのなり樂共子ガ三事の説といふそこのと戴くより國語ヌく
こう又七尺去とハ弟子のおろ〳〵師戴うやまふ貞なり
そ〳〵まさよきこち戴おそろ〳〵ふそ師匠とのくとを辞義ぞ〳〵
ぜ孔子を仁ヌ當てハ師ヌ譲ぞとのごまくり

觀音為師教宝冠戴弥陀
勢至為親孝頂戴父母骨
寶瓶納白骨

觀音ハ阿弥陀如来のあんでーなりかるがゆゑに本師弥陀戴
冠のうちヌふくべきそもふ師恩戴頂礼するの義なりこのこと
龍樹の十二礼ヌこう又大日経ヌを説ひり善道大師の般
示讃ヌハ天冠の化佛〳〵き千里なり慈恩戴念報〳〵て

戴納

朝ヌハ早起
て手戴洗
意戴攝て經
書戴誦せよ

法称ヌ頂戴そとうてくうのかみりなり観音
ハ毘楞伽摩尼宝戴ハそもちて天冠とまゆふかくいふなり
くく〳〵ハ十六観経ヌとりてその天冠のなうふひとうのうて
る化佛ハいまんたりさ二十五由旬とうてくう勢至ハ父母孝
行のこあふかーらヌ舎利戴いづきそまふなり宝瓶とハさ
うのはふなり勢至のいづきの上の肉髻ハ鉢頭摩花と
いふさうのはふなりと観経ヌくう〇一説ヌいりく上の文
ヌ父母の骨戴頂戴そとひて又下ヌ宝瓶ヌ白骨ヌさし
とハいづることバるりのちの人の注解のことバなるべーと難
ぢうまどそこの實語童子の二教ハいるがち文章
のゑ〳〵びあく童子等観音勢至の二菩薩を師恩戴
うくとこと親の孝養戴ふくあひうち戴さろせよ

朝早起洗手掠烹誦経書
夕遲寢洒足靜性案義理

夕ふハ遅寝て足ず洒性ず静て義理ず案ぜよ

習讀と毛意ふ入不バ酔寐て謌ず語が如ー千巻ず讀と毛復不バ財無ーて町ふ臨う如ー衣ず薄きの之冬の夜も寒ず忍で通夜誦せよ食ふ乏之夏の日毛飢ず除て終日習へ

習讀不入意如醉寐謌語千巻不復貧財如臨町

禮記曰凡内外雞初鳴咸盥漱とひうこの段ハこゝもろの文よりかきいだし童子等日こふ法とむづき学文の義ず在ありなうあゝさふおハとくおき手ず洒ひるバまづこゝろず経書ず読て義理ず案ぜよとうり性とつふハ人こむまれるこゝろ本性ハこゝる善るものと朱子もいつその性善のよきこゝろ在家の子るゝハ聖賢の書籍なうさてゆゝをふなるくおそくいねよまづ足ず洗そゝぎるバ性ず清つめてよゝこゝろ学ず修行しいよくこゝろず明ふまべし

○小学ふ云習といつ字ハ廣韻ふ学るうといつうねどなゝひこむもその義理ず意ふいまべしてゆゝをふ酒ふ酔うて

衣ず薄きる之冬の夜も寒ず忍で通夜誦せよ食ふ乏之夏の日毛飢ず除て終日習へ

舊衣之冬夜忍寒通宵誦

食之夏日除飢終日習

醉酒心狂乱過飡学文

酒ふ酔ハ心
狂亂も
食過をバ學
文ふ倦

身弦温ふも
をバ睡眠弦
増
身弦安んも
をバ懈怠弦

酒弦のゝてハ本性弦くらハをる人ゝを狂乱をるゆゑいうるゝ孔子を酒ハもうるし乱ふおよびぞといまーめゝそふ酒ハ佛性弦失ふゆゑ大ふいまーむ善悪所起経と云弦ゝをバ三十六の酒の過弦とけりその三十四番の説ふ身心散乱もといつるひハ資持記ふ十の過弦出し龍樹の大論ふ三十五の失弦加ぐるうまことふ酒ハ人のまろ弦ゝぐまその ゆゑふ狂乱といつなり学文弦をとむるゝものハまいとゝろいまーむぐーし次ふ食をぐまバまろゆるまりてかるしぐ懈怠弦しやうぞふまぐるゝそのあるゝバ学問修行の人ハのくまでふくゝふまぐーきことゝ弦いまーむるなり

温身増睡眠安身起惰怠

睡眠とハ五篇ふ睡ハ物ゝなり眠ハをとより物ふることなりきゝるもの弦あるくきて身弦あゝてゝふををバ物ゝりおよそ物ゝの學弦廢ーー道弦さまざまあるゝとそのゆゑなりこゝをふよりて宰予ひるゐ

起

匡衡ハ夜學
の為ふ
壁弦鑿て月
の光弦招

福ゝり孔子くちゝる木のせあ弦のこーー那律ゝり福ゝ釈尊蜂蛤のそーー弦ときゝ發覚浄心経ふハ睡眠ふ十二のぶ弦ときゝ發覚浄心経ふハ物ゝふ二十種の過患ひるゝと弦ゝり懈怠とハがくゝんふゆぶんーてをとめざる弦ゆゑなりつゝこゝろハ身弦やまゝふふのーこあゝバまゝろおいゝてゝふぐゝふぐしいぐゝふおなるなり〇菩薩善本経ふ懈怠ハ衆生のうゝづらひといつ馬鳴菩薩遺教経論ふいりゝ懈怠とハ心懶惰のゆゑなり睡眠とハ心悶重のゆゑなり

匡衡為夜学鑿壁招月光

史記列傳および漢書列傳るゝびふ劉敞が西京雑記弦ゝをてゝるゝふ匡衡ゝなぎる弦稚圭といつ東海承乃人なり先祖より農行弦をとめきらめて学文弦ゝみるゞ家ゝまぢしーくーてゝりゝびゆゑし壁ふ穴弦うゞちてそのとゝりのそーーびのひゝろ弦かゝて書弦よむそのさとふ家ととゝそ書ゝをゝ弦あまゝをもちるる人あり匡衡ゝこの家ふやとりまてかゝさくーーりるが

孫敬ハ學文の爲ふと戸ゟ閉て人ゟ通不

蘇秦ハ學文の爲ふ錐ゟ股ふ刺て眠不

かゝてひくひゟ引そゝぐる迚ゝ主人ひやゝゝてそのもさゝ引ゟ引ゟ匡衡がいとく祢がりくゝハきゝゝの書ゟよまんことゟのぞゝなりと主人そのこゝろゟ引ゟ引ゟゟゟ世ふくゝまもゐきゝ学者とあまり本傳ふ八月のとゝハゝゝぞいまゝの童子教ふ八月のひりとゝつゝこをゝハとすゝび引月のふぜいふとゝるゝゝゝ文飭ゝてうけるゐぐゝ

孫敬為學文閉戸不通人

楚國先賢傳ふいとく孫敬ひのざる引ゟ文實とゝ楚郡の人なり学問引ゟそゞて人のゝようひ引ゟやめて書引ゟよめりよろて世の人閉戸先生と称せり國君よりめさるゝもいでゝゝゝゝゝとなり

蘇秦為學文錐刺股不眠

史記および李氏藏書の六才名臣傳ふくゝとゝくのせゝり戦国策ふ八蘇秦ハ雒陽軒里の人なり十年がくもん引ゟ

ゝとあて家ふゝりゐるふ兄の妻こをゝ引ゟて祢やようおきひゐりをゝどゝもそのいつゝとゐるゝゝ大夫の位ふ達せ祢ハゝゝまをあーそのとゝ蘇秦ふくゝみがきていそくどゝとてまゐゐちそこ引ゟきてゝげむゝ書引ゟよむうちふ祢ゝりきぎせハ錐引ゟをゝて足のゝ引ゟさゝをせりくゝ血なゐきて足ふそまるゝ引ゟ一すの日のこゝろはりて齊王ふゝゝ丞相とゝ官ふるまりかくてのゝびのさゝ引ゟもあゝゝてもゐゝゐるゐどふつゐふぐくゝん蘇秦六国の諸侯ゝちよう印書引ゟうこと引ゟ佩てゝゐ家ふゐるふひふよめをゝゝも六十里ゐどむひふいでゝゝゝゝゝゝとゐりしがいまむうひふひゐるハゐふごとゝゐふひのふまいゝハんこいま丞相とゝ官ふるり六国の諸侯の印引ゟおびてきゝり名引ゟ天下ふひのゐ親ゐゝちまでのぐんぐん引ゟもさゐまゝゝとゝふ蘇秦こをゝ引ゟきゝて

いそくまぐくするしんのことをおもひしハこゝろなりとぞいふ

俊敬學文縄墨頸不眠

俊敬といふハいまのぐんぎ右ふひやうの孫敬がことなりのやうに先賢傳ふ孫敬がぐくもん就ていとまをおしみ縄就屋のうへにて眠をむさぼりしかバ後勘まぐ〳〵

車胤好衆螢聚螢為燭矣

晋書ふ車胤あざなハ武子といふところの人なりつねふがくぐんぎ就ていとまをおしみそうむとりまぎ〳〵そのゆゑに夏の夜ハうまそのくふくろのやうに螢就あまたとりあつめてもつて就てし夜を日におつぎてぐくもんしゆう博学もつてあまねくのことふつゝぜうその名世ふくまでもとゞろきし也ふたゝふ吏部尚書の官ふなるまでとぞ

宣士ハ夜學就好で雪就積で光と為

休穆ハ意ふ文就入て冠之落と就知不

高鳳ハ意ふ文就入て

宣士好夜學積雪為光矣

文館詞林文人傳ふ宣士ハひのざる就演侍といふ官ふなり會稽の人なり代〻農行就ともむ家きハめてまづしかりしかバ夜学就つとめんとまをもつてするし冬より春ふいたるまでハ雪就のつめてそのひかりふて書就よめりのちふ侍中の官とぞまで

休穆ハ意ふ文不知冠之落

文士傳ふこゝろ休穆あざなハ周和といふ河陽縣の人なり幼少のときよりがくもん就このみてをこたることなく宣帝ふたゝびて従事の官ふなまでなりはて祢ふこゝち就ゆくときも書就のかみうへもこゝろのまゝにはなさゞりしかバ路のうへにてもつぱらそのおもひのあちこゝろ就もつぱらにして手就もそぞろにするときも書ふふでくこゝろうつてそのうへのあちこゝろ就もつぱらにして手就もそぞろにするときも書ふふでくこゝろうつて

高鳳ハ意ふ文不知麦ふ流

麥の流ること
知不

劉寔ハ衣ヲ
織作
ロヲ書ヲ誦
シテ息不

倪寛ハ耕作
ヲ作

後漢書なゝびゐ李氏藏書ゐ傳ひう高鳳ひざゐ文通と
いゝう南陽葉の人なりその家農行ゐいそがゝしくゐるとも
ひるときゐ書ゐよゝてゐるときゐその妻田乃
まゝゝゐ麥ゐ刈ゐおきて高鳳ゐざん牧させゐゐとりのさてく
らゐゐおゐせてゐりゐゐゐ雨ゐふりきてゐりゐまごも高鳳書ゐ
よゝいゝて雨ゐ水がいぞくゐ麥ゐこゐぐくゐがしゐゐゐまごも
のゐん牧よゝゐゐゐゐゐ家ゐひゐて妻が麥ハいゐとゝひゝゐ
ちゝめてゐりひいぐしゐるとゝゐそれゐどゐゐりひいまゐお名儒の誉牧ゐゐり

劉寔ヲ織衣。口誦書不息

廣輿記東昌府の人物類ゐゝゝり晋の劉寔ひのざゐハ子真と
いゝう高唐の人なり家まづーうしめゝゐ牛の衣牧ありて世牧ゐ
られ博学ゐして司空の官ゐるまり崇譲論といふこと牧ゐ
はくゝて世上の風俗牧矯るとゝ九十二ゐて死まといゝり

倪寛ヲ耕作。腰帯文牧不捨

漢書列傳李氏藏書循良名臣傳等ゐのせゐゝゐる倪乃
字牧兒ゐゐけり音ハたゞひゐけいのゝゐるゐり韻府ゐハ倪寛ゐ
作るゝの人ハ千乘の人ゐゐゐり孔安国ゐはゝて学問牧つとむつ
初ゐやゝゝまて耕作ーるゐゐり腰ゐ経牧ありひて鉏といゝり

此等人去皆書癡好学文
文藻満家遂到頂学位

ゝまゝゝの人とハ臣衡よゐり倪寛までの人ゝ牧いよゐのり文藻とハ
文章のことゐり藻ハ海の草の名ゐり本朝の人正月ゐゐさいゝ
といふものゐはくる草ゐり神宮皇宮の馬のまくさにーゝ海
ひーゆふこのくき牧神馬草とそいゐりそのくさゝゝゐる級
ゐりて文章のらきはゝゐ神ゐよく似ゐるゆゐ文藻といふと
洪武正韻ひるひハ顔師古ハ漢書の註ゐゐけり右の十人の人ハ
よるひるのつゞてるゝく学問せーゆふつゐふその功がひゐハ
まて文章が国ゐを家ゐそ満ゝゐり日本記ゐ國家とハ

縦篋弖磨振筒口恒誦経論
又弓弖削矢腰布常捶文書
弖捶張儀新古弖誦せーうバ
枯木菓弖結矣

縦篋弖磨振筒口恒誦経論

みうどと訓ぜその名天子「もきこゆるハ文学の徳の大ひなり碩学とハ碩ハ大の義あり大学匝布成まりとあり

篋ハ宇彙の説弖んぐるふ基弖行て相塞弖籠といふとなりまバ基の石双六のさいろうくと双六などの筒弖ふる所作残るまでを口布ハつねふ経書弖よめとるう漢の許升徒博なりしぐるを学弖もまりて世の名賢とるまでう又弓弖けづり矢弖もぐるぐ弖もまるうちにを腰布ハ文書弖さーもきめとハつねふくゑんのこころ弖もまるもまるといふことなり

又弓弖削矢腰常捶文書

史記列傳弖按まるふ張儀ハ魏人なりしぐるを鬼谷先生弖師として学術ふろし国ごの諸侯「こちりて軍法弖ときひろめ

なり楚国の王ふまろさりて道弖くそのありふーを楚の宰相の壁弖うしるふまりるる張儀こうらまて杖みてうつることを数百バくりせめしまぬさまでもぬまでよぬふきハまりて後ろさまでーかその妻張儀ふむうひあんこ書弖よくてのうぞバるみふよかくのごときまぢ弖くをきやといひりまバ張儀ごう舌弖こよあるやといふその妻舌ハのりとてもふ弖張儀舌弖のうぞなんぬせうといひりまバ張儀ごう舌弖こよいうーくの書なり枯木菓弖結とハ張儀がまのてるん弖よめハあまう辯舌のきぐことあること枯木をんをりしてこうさきこのう弖むまふやうふうーるう○文選云張儀張禄が英雄の辯舌枯ろる弖栄ーー朝ふ在てよく時の尼弖濟まふこ鏡機子云夫辯言の艶るるハ窮澤弖て流弖生ど枯木弖して栄弖發せむ

亀耄誦史記古骨滑膏矣

亀毛先生とふ人が三寸の舌弖發してその弖いバかまとる木を花さき言いひりくさせバひさーくさしくる骨もまでばく

亀耄史記弖誦せまバ古骨膏づくと弖得矣

伯英ハ九歳ふりて初て早博士の位ふ到

やうるといふと空海大師の三教指歸ふうくうこれが實ふあり人ふ何ぞ亀ふハ毛のあるまバ亀毛といひて
かりの名ぜをふハ實ふハ毛のあるまバ亀毛といひて
ハ史類記類の書なるへし一三教指歸ふさいの亀毛先生の徳
ぜるめて九経三史心藏ふ括嚢一三憤八索意府ふ諳憶
せりとひるわどふくいふなり志るさどそ又外ふ亀老といふ人
ひりて司馬迁が史記ぜよりもと
いまざる一ひるようごころぜうぞ

伯英九歳初早到博士位

國朝名世類苑ふ伯英ひのざるハ長花といふ琅邪の人なり
とし五さいふして文詩ぜよくにくまり七さいふして経史り
達せり事らてなりハぞといふとる一九歳のとき元帝ふつう
て博士とるまり博士とハひるくこものふ通達まる人の官乃
名なり百寮訓要抄ふ博士ぜのせうまうこ文章乃博士と
いふあくこまる正六位下るくといふ應劭漢官儀曰博士ハ

宗史七十ふ
して初て
學ぜ好で師
傅ふ登

智者ハ下劣
るりと雖
高臺之閣ふ
登

秦の官なり博ハ古今ふ通下士ハ然否ぜ辯ぜと云云
○伯英ひろ九さいふして博士とるる童子等学文ぜ始めよ

宗史七十初好學登師傅

獻徵録ふ宗史ハ幼少のときより年あひるまで耕作ぜいとる
ミくりもるふと一七十ふしてそめて陳丘といふ人ふ一こう
ひて学問せりと一るまバ夜ぜ日ふ注のでまるびー不ごとり
つるふ大学のるまま一ぜるて諸史百家の書ふ通ぜ位三公ふ
のぞまり三公とハ太師太傅太保ありて師傅ふのあること
いり日本ふてハ右大臣左大臣大政大臣ぜ三公といふるり一宗
史七十ふおよびて学問ぜるめて天子の師傅とるるまり世話ふ老
てのぐまんをどいふはりひつづし朝ふ死ぬるまでを道ハ学ぐきものり

智者雖下劣登高位墮奈梨之底

愚者ハ高位
ありと雖
奈梨之底ふ
墮

智者の作罪
者
大なるまども
地獄ふ墮不
愚者の作罪
者
小なりとも

さてハ佛道ぢいふるまバ佛の戒ぢまもる者ぢ智者と
やづる者ぢ愚者とまべ〳〵涅槃経ふ戒ぢうかぢ有智といひ
うまごぎぢ愚痴ととけり高臺の閣とハ佛果ぢいふかり梵
補天の中の高樓閣ぢさ〳〵いふかり戒行ぢ〳〵き人ハことと
ひ下劣なまどもを十善戒の力ふてこの天上の閣ふのぞてこの
しぢぢきハむるかり破戒の人ハことひ位ぢうきぞてもを奈梨の
底ふ墮とるかりまいまとハ地獄のとるかり梵語ふハ涅黎耶こいり
うふハ寄係どもを閉城ともいふと祖庭事苑ふこ〳〵こう

智者作罪者。大不墮地獄
愚去作罪ヲ。小必堕地獄

さの四句ハ大般涅槃経のこうかりの文ぢバ〳〵まべてふる
さぎ又源信如来の往生要集ふもことひかり愚人のごとき
ハ悪ぢをくりてのちふぢぢくるまどもをいふぢぢくることまこうべくろぐ〳〵ぢ火ふて

必地獄ふ墮

愚者ハ常ふ
憂ぢ懐
譬バ獄中の
囚の如し
智者ハ常ふ
歡樂も
猶光音天の

やきて地ふをくときぢ両人ハてこまぢ手ふとるふ一人ハやけ
なることぢをりぢ一人ハ〳〵まうざるものハ手のうちあ〳〵いう
ごきまるとのハやづることまくる〳〵悪ぢをくるもうくの
おとく愚者ハこづ〳〵つ〳〵ぢくゆることるふ〳〵ゆるふをぢ
うるなり智者ハ悪ぢをくまどもをひ〳〵ことまりてひぶふこづ
う〳〵ゆるこぢぢまふ〳〵ふそのをこまくるをことう

○大藏一覧曰愚者ハ小き懲終ふハ大ふ報智人ハ重業ふ
どもを却軽償

愚者必憂辟言如獄中囚
智去常歡樂猶如光音天

正法念経偈曰智者ハ常に憂ぢ懐而獄中の囚ふ似かり
愚人ハ常ふ歡樂ま猶光音天の如〳〵

一説曰いまこの童子教ふハ右の経文ぢうせり去まどもあい
ふうらぢとり筆者の誤り但作者のこころ〳〵ふてる歟せるといふ

如ㇾ
父の恩ハ山
於 高
須弥山尚下
母の徳ハ海
於 深
滄溟の海還
浅

父恩高於山須弥山尚下
母徳深於海滄溟海還浅

○愚ハ多く本文のごとく註するゆゑ儒ゆ所謂君子ハ憂ぢ小人ハ懼るのたぐひ愚者ハ煩悩ゆせあるゆゑつ称ゆ憂あるく智者ハ佛道成ひきゝむるゆつゆゆ歓楽まゞきるゆ獄とハ牢のことゆり玉篇ゆ囚の字或ハ字彙ゆ罪人なりといゝり光音天とハ色界十八天の第六の天なり梵語ゆハ阿婆會と云ふゆり名義集ゆいでたるまゝ従義法師の四教儀の集解ゆ光音天とハ此天そのゆゑこゝ口ゝきよき光或いく音といふハそのゆゑなり新訳ゆハ極光天とゆ也

恩深と大海の如我若世ゆ住まること一劫二劫ゆ説とも盡ことゝ能ぎとけるところゆり須弥山ハ世界第一の高山なり須弥とハ天竺のゆるきことバなり梵語ゆ蘇迷盧といゝ或訳ゝて唐ゆハ妙高といゝゆりてたゞきこゝろなり観経の疏ゆあるゆ猶たゞき三百三十六萬里なりといゝり倶舎論ゆハ八万由旬なりと又長阿含経起世経宝積経などゆハ八万四千由旬とぞく注経の説ゆハ十六万由旬のごけなり右ハこる佛書の説なり儒の中ゆ須弥といふハ別なり琅耶代酔篇ゆ崑崙山或きゝて須弥君山といゝり皇子年ゞ拾遺記ゆハこゝろんぎんの西のゝ或須弥山といゝとゝりゆゝ滄溟海ハ大海の外ゆありふゝき九万由旬ありと下学集ゆ東方朔ゞ十州記ゆ水こゝのをき色ゆり仙人こゝ或滄溟海といゝとなり

白骨者父淫赤肉者母淫赤白二諦和成五體身分

白骨者父の淫
赤肉者母の淫
赤白の二諦和ーて

この身のーろき骨ハ父の淫精ゆのゝき肉ハ母の淫精なのり淫とハ腎精なり赤白の二諦ハ父の精母の血なり諦ハ滴なり和ハ

五體身分と
成

胎内ふ處と
七月
身心恒ふ苦
勞も

和合なり五體とハ筋脉肉骨皮毛ぢ云ふなり魯齋王拍天地万物
とふるふおおの〳〵天台大師の十疑論ふもこまごまとのりふ觀ふハ
頭面四支ぢ云五體とふるとひまバりく〳〵と両の手両の足ぢ云ふなり

處胎内十月身心恒苦勞

胎内ふ處とハ母の腹ふ云ふ
造化論云天一地二人三三ふて九ふ如九九ふて八十一ふ日
ぢ主る月の数八十故ふ人ハ十月ふて生ぢとふうちるふ五月
七月ふてもまるこをひとり一偏ふさるべく〳〵十月とふふハそのふん
はきてふり胎内ふやどるととて佛書ふもとも多さまぐ〳〵の
説あるどもこと志ぐるきバ大般涅槃経云奇哉
我母大苦惱ぢ受十月ぢ満足ふ我ぢ胎ふ懐抱せりとひるふ
本文のこころおなじ〳〵もその懐妊ふてあるて十月のあいだハおき
ぬ〳〵ふはりて身も心ぢ云ふをなやませるそのくるしさいかばかりぞや
と人の子ふこのハその恩ぢ云ふありひやすべしとなり

胎外ふ生て
數年
父母の養育
ぢ云ふ蒙

生胎外數年蒙父母養育

胎外とハ胎内より外ふむまるをひふて三年ふて去りふてのち父
ままて六七歳まで父母ふやしなハるるをひふて
語の陽貨篇ふ子むまるて三年ふて去りふてのち父
母のぬくところぢ云ふまぬるとひふ馬融が注ふを子むまるとて
いまだ三歳ふあらざるをバ父母のふめふ懐抱せらるるとひふり詩
経ふも父母ふもとひふ云ふ母ふもとひふ云ふ
もぢ云ふやーなひるまぢ云ふやーるふるもぢ云ふせるも
かくさふもとこころ
ふり

畫者居父膝象摩頂多年
夜者抱母懷費乳味數斟

畫のひらぶハ父のひざのうへふおゐて摩頂とていくばくぢ云ふのこと
さんらまてふりひのいせるもと年あり夜ハ又母のふへと

畫者父の膝
ふ居て
摩頂ぢ云蒙と
多年
夜者母の懐

ふ臥て
乳味を費と
數斛

朝ふハ山野
于交て
蹄を殺て妻
子を養
暮ふハ江海
于臨て
鱗を漁て身
命を資
旦暮の命を

ころの中ふうて乳を
嬢の八斛四斗の白乳を
とハもちゐる例なり又五道受生経といふ児生て三歳ゟ一
百八十斛の乳を飲といふことをもてハかるな佛説なり

朝交于山野。殺蹄妻子
養漁于江海。漁鱗資身命
為資旦暮命。日夜造悪業

旦暮とハ朝夕のことなり悪業とハ釈氏ふり十悪業の第一とする殺生罪をいふるり梵網経の十重禁戒ふ殺生戒をもて説り嗜とハまきこのむことなり朝夕の食物ふ味ひをこのんで奥鳥をころすをいふその業ふひろて多劫のあいだ地獄ふおちてくるしむるをいふ劫とハ倶舎論り時のもくまき也刹那といひ時のるがき也劫ともいふ

為嗜朝夕味。多劫堕地獄

資為ふ
日夜悪業を
造
朝夕の味を
嗜為ふ
多劫地獄ふ
堕

恩を戴て恩
を知ずハ
樹の鳥の枝
を枯が如し
徳を蒙て徳
を思ずハ
野の鹿の草

戴恩不知思。如樹鳥枯枝
蒙徳不思徳。如野鹿損草

人の恩ふかうむるがごとくその恩を報ずるハ人よりも鳥の木ふもとにあるがごとくその枝を見て枝を拈が如しとなり華厳経ふ恩を知ざるものハ多く横死ふ遇とかやまた人より徳をきてこれを報ずるハ野ふもむ鹿乃その

猶損ㇾるが如ㇾ
酉夢其父猶打
天雷其身猶裂

ところの草猶そんぜるが如ㇾといつて
ざる人ハ畜生より甚ㇾしと

酉夢打父天雷裂其身

岑象求吉凶影響録ふの
むものきつき不孝ありひの
いうてちやくちやくちやくと
くぐ猶うつそのとき天ふハ
雷その家ふあちくらくら
その死骸猶きやがりて庭のまん
せるふ銘ありいち〳〵酉夢ふ
酉夢ちく猶うつ天のむくひふハ身猶きくとふ字なり

班婦罵其母猶
罵ㇾ
靈蛇其命猶
吸

班婦罵母靈蛇吸其命

張師正が括異記ふ班婦
ハ母猶そしりいるとき
ハ母猶くらふとつて罵とハ正韵ふ悪言なり詈るといつて
ㇾるそのむくひなり

郭巨ハ母猶
養ハんが爲ふ
穴猶堀て金
の釜猶得さり

郭巨為養母堀穴得金釜

孝子傳ふいでくら郭巨ハ後漢の世の人なり家まづしくて、
ひとりの老ける母猶やしなふ妻ひとりの子猶うむ三歳
ふなるとき母食物猶ひけて孫ふくハせり郭巨そのはゝ
くるていふやう子ハまたもらるべきがもくハふたゝび
うづて母猶やしなふべし子猶うづまんとも郭巨穴猶
づ〳〵ぞとつゞバつまんとも同心して子猶うづまんとも
ると二尺ばかりあて一つのこがねの釜猶得らうう
くろがねの銘ひり天賜孝子郭巨官不得奪人不得取と志
るせりいふこゝろハ天より孝子の郭巨ふさまいるやくなり
とうばかまく人をそるまじきとなり(○)蒙求三綱行實
猶按まるふ黄金一釜猶ろいぐんとなり釜ハ六斗四升ふ
り論語ふ子曰こゝろふ釜猶與よとなり

姜詩去自婦汲水汚庭泉

姜詩自婦汲水汚庭泉得之

後漢書ふみくら姜詩ハ廣漢といふところの人なり母ふつゝていくらて孝行なり妻を又姑ふたふることまるりぶひつし
去るふ姑奠の膾汲こゝみ又井の水汲きふて江漢の河乃水汲もきこゝろ一ゞハ汲くらて姑ふまいらせぬ去るふひるときに大風ふひ一て妻
こゝ汲くらて姑ふまいらせぬ去るふひるときに大風ふひ一て妻
久らぎ一てひとひ母もきの水汲のまぎもしことひりそのとき姜
詩ハま汲せめてそのまゝくさまり妻ハおのまゞとう汲去りて富
貴たる家りまをよめいりせぎ一て姜詩がとありつきこうて書
夜ふ紛ゐご汲うてそのう汲もごゝ一うまきこのひまゞハこゝま
とも名汲いぎ一てつ祢ふ姑一おくまり姑ひのやゝ一ゝてとうりの
老母ふおさい汲うふふひのまくふ法ゞ一ゞハ姑大ふよめのさて
ろざ一汲んじてよびくゞ一ゞうそまりしてよめ去うとあのあつ
いよくむつまじ一かりしそのひちその子ふ水汲くませるゞふゝき
ところくゝいうてはゝふ死一うくてそのいゑ乃ふそう

孟宗竹中ふ哭て深雪の中ふ筍汲抜

孟宗竹中深雪中抜筍

晋張方楚國先賢傳ふ孟宗ゞ母筝汲きふのめり
母の死一てのちふ日ごろもそるこそのふそまつゝんともそるくどこも
時いま冬の節雪ふき中ふ筝生ぜきやゝそるく孟宗竹の
ちやゝふいうてあのふうるゝぎりまゞハ竹の子こまぶくめ
ふあひいでゞうこまゞ汲もつて母の亡後ふまをりうることひのうこまこ
こる至孝の感ぎるとところるり後孫皎ふたりくて司空と云官
ふあまり〇又異説あり孝子傳ふ孟仁字ハ恭武とゝり江夏の人
なり母ふたくていくらて孝行なりそくうんるる汲くりくと汲このむ
孟仁ハそふよふくいゝてそるゞ一ゞ志るるふ冬の月いまぎ生ぜべ孟仁竹
ふをぐうてゐゞきりまゞハ精灵こまゞ汲りんゞてこまゞうあふうのこ

王祥歎て氷を
叩バ堅凍の上に
魚踊

あひいづとなりかくのごとく二説ありいづれにも用ゆべし呉録に
ハ孟仁もとの名ハ孟宗とあり

王祥歎叩氷。堅凍上踊魚

晋書の列傳に王祥あざなハ休徴といへり琅邪臨沂の人なり
継母朱氏よりて子をいつくしまず王祥いよいよ孝行にしてまつり
父母をやしなひあるときハ衣のおびをとかずして湯薬をいへ
ゝてまつるその母なまなるうをこのみけるを極寒のおりふしや
氷はるころなりけれバ王祥きるものをぬぎて氷のうへにふして
うをもとむるにたちまちこほりおのづからとけて二疋の鯉をどり
いでたりこれをとりてかへりて母にそなへまつる又黄雀とて口のうちに
きいろなるすゞめのひとりでにおちてとりしハ六七十羽なりしと
で幙のなかに入これを母にそなへたりそのさとの人おどろき
ひとりこれハこゝろな孝行のかんずるところなりといへり○傳灯記
古事といふ書の中に孝子の詩にいはく継母人間有王祥天下
無至今河水上一片臥氷模この詩のこゝろなるときバ王祥が氷を

舜子盲父を
養
涕泣をきけバ
両眼を開

ひらくめでとうんとして氷のうへにいねてひきハそのこほりひとつとろ
こりいまにいたるまでその川の氷ハ王祥が臥たるかたちをわすれずとぞ

舜子養盲父。涕泣開両眼

孟子離婁の圖解に舜の父ハ目ハありて好悪をわかたざるゆへに時の
人瞽叟と名づくとあり又小説家にハ舜の父實に瞽舜これ
を舐霍然としてひらくとこの二説あり本文にハのちの義を
とりてしるせり孝子傳ならびに史記を按ずるに舜の姓ハ
姚あざなをバ重華といへり重華母にはなれて父の瞽叟のちの
妻をめとり象といふ子をまふく母ハかたくななり象ハおごりて舜
にハ孝行ひまなども後の母悪心ありて舜をころさんと瞽叟に
ざんげんしてむりやりしを舜に倉のやねをふかせけり
舜そのこゝろをさとりて手にふたつの笠をもちて倉にのぼる瞽
叟下より火をはなちて倉をやく舜ふたつの笠をひらきてとび
ありけり瞽叟その死せざるをみて又舜をして井をほらしむ
これ舜をうづめころさんとなりけりとなりの人そのこゝろをしり

舜ふたゞび他國へおび
さゝげて死して孝ありまそゞしたりて不孝なりゞ
ところの人そのこゝろ
の明日井ありとおぼふ舜
父母あきふよろこびて
ところの家の井へふげ
みるに歳くるふ三百石の米
ところ母ハこゝろひもと
いつて家ありく舜ハ継母
なりしゝば舜かるゝこゝて
その米のふくろのなゝへ銭
こびくるゝ瞽叟ひの
と手ありたまふひるまて市
あひいづき悲哭哀傷ち
せぎとゝふとるゝ舜手
るゝむふゝちまち両目ひらけ
よくそのひやくふるまでこの孝順四海ふきこゝ堯帝その聰
明ありきゝて天子の位ゆづりまつり舜その位ゝ在こと八十二載也

刑渠養老母齧食歳成若

刑渠ハ老母
歳養て
食歳齧む齢
若成

樂史が孝悌録ふ刑渠ハ會稽の人なり幼少ゝて父歳うしな
ひひとりの母歳やしなひていろいろて孝行ありけれふ母ふ食歳ふて
まつるごとふまづゝそのちふひるまそやまひのまゝ
夜歳ねずして看病せり冬ハ床歳あたゝめ夏ハ帳のつく朝夕
そゝふたゝてひぢりひ歳そのゝをきこのまゝ一食物歳そのゝる
ゆゝふ年七十ばかりなる母ありともふ三十ばかりのやふふゝこのゝ

董永ハ一身
歳賣て
孝養の御器
ふ備

董永賣一身傭葬事御器

孝子傳ふ董永ハ漢人なり家まづしくて人ふやとはれて耕作
歳しごろ毎日ひとりの父歳車ふのせそひきひろきて農行歳ば
とむくて父死しごろしがそのゝ身歳主人ふうりて銭十貫歳ふり
そゝまて父歳葬禮しそゝるとおぼふそひとりの婦人ふ

楊威獨の母
戍念て
虎の前ふ啼
しゝバ害戍
免

顔烏墓の土

戍負バ
烏烏來て運
埋

許孜自墓戍
作
松栢戍植て
墓と作

楊威念獨母虎前啼免害

顔烏墓負土烏爲來運埋

許孜自作墓松栢植作墓

もとむ董永主人のところふとゝをるふふ主人かどりのきぬ三百匹戍
もりなバ夫妻ともふゆるさんといつりその つ日一月のひのぐふ三百
匹のぐり戍あまり主人そのたやき戍ひやしゝて二人とかふゆるせり
あるふたま夫ふかくりていまくこまバこゝま天の織女なり天帝
きゝが孝行ある戍ゝまそぐまり列仙傳戍ゝまバ董永が子戍のせくり董仲とふ天乃
織女のうむところとひり

李龔拳が忠孝圖贊ふ楊威とーときゝ死ふ山ふ入て獵戍
せりひとりの虎きくりてやい戍くらいんとを楊威なぞいていを
くゝまふひとりの老母ひりいまるんぢふくりきなバいでまくきそ
といひりまバひゝきとゝをゝちまちふまげきりしるり

廣輿記の十金花府の人物類ふ漢の顔烏バ烏傷とつところの
人なり父死して土戍あて墓戍たくふ烏むりくきくりて土戍ふ
くゝてをふ墓ふそこふそのゝもくちむーこるいつめりるが烏
ふそのところ戍名ばゞて烏傷とつなり大明一統志の金花府の陵
墓類戍ひつめくるところふ顔烏が墓戍のせくりその注戍ゝまとバ
義烏縣といふところのひがーー四里戍をぎて石碑ひりといり詩
学大成の異苑部ふ東陽の顔烏とひりまく烏傷といひーー
ところ戍王莽がひゝくゝあて烏孝とつるりふをも顔烏が孝行のまし

氏族排韻ふ晉の許孜ひりぎる戍バ季義といり東陽の人なり
二親死ーてのちふ身をやけをゝそてうまひなバき土
戍負て墳戍たくるふ鹿ひりてそのうつくる松栢の木戍損ざん
許孜ありきふりゝまバ明日その鹿ゝりきりくとのふくいまこー
死ふりと廣輿記ふあるせりその孝行戍感ゞてその里戍
孝順里といふなり大明一統志南畿志なゞのなりふをまひ

此等の人者皆父母に孝養を致て佛神憐愍を

ことをのせたり又排韻に晋の元康年中に孝行が世にかくれなかりしゆへに天子より旌をくだされて其門にそてさとなりあらこしにハ孝行のものあれバ天子より旌をたまハりて門前にたつるハしてをくなり○按ずるに許孜といふ者世間流布の本に許牧とかくハあやまれり童子教の本文のことを見て松柏植て墓と作とよみくだして松柏がひとり生じたるやうにこころうるハあやまりて松柏を植て墓と作をとよむべししかる註解をしるせして訓讀せるゆへに世本にこのまぐひのあやまり多し詳にすべしまづ松柏とハまつひの木をいふなり盂蘭盆経の新記に松柏ハまるいち墳墓にうゆるところの樹なりといへり

此等人者皆。父母致孝養。

佛神垂憐愍。所願悉成就

此等の人とハ上の郭巨より以下許孜までの十人をいふなりこの人とハみな孝行の心ふかく父母に孝行せしゆへにそのこころが

垂て所願悉成就す

生死の命ハ無常なり早涅槃を欣可

煩悩の身ハ

諸佛菩薩天神地祇も感應してそのねがひをきこしめしゆへに心にねがふところを成就満足せりとなり○書経酒誥に曰厥父母に孝養せよ尓雅云父母に善を孝と為祭法曰孝者畜也説者謂親に事の道常に畜て心に在と云云

生死命無常。早可欣涅槃

これより巳下ハ佛説によりて人間の無常をときたまへり三界乃分段生死をうけてこの世に死しかしこに生じてさだまらぬを無常といふなりかるがゆへにすみやくぶつしんをおこして佛果乃涅槃をねがふとなり涅槃とハまづやうなるさとりにいたるなり盂蘭盆経の記にハ寂滅と翻すといへり生滅めつしおハりて寂滅をたのしことまるなきバすみやく生死のふちをさとりて涅槃をよろこべとなり遺教経の節要にハ圓寂と義翻するといふまた涅槃とハまどかにかけたるなくまどかなるさとりをいふなり

煩悩身不浄。速可求菩提

不浄なり
速ヨ菩提ヲ
求可

厭て毛厭可
ハ娑婆なり
會者定離の
苦なり
恐て毛恐可
ハ六道なり
生者必滅の
悲あり

煩悩とハまどゝ〳〵くなやむこゝろなり
一覧などヲふくゝり貪欲嗔恚愚癡の三ツ
ハ仏ヲ人のこゝろ
なやまし毛ヲ身を浄くゝぎるなりバさやくゝ
ぐ
又覚といふ名義集ヲ道の極その
仏果の異名なり

厭可厭娑婆。會者定離苦
恐可恐六道。生者必滅悲

娑婆とハこの世界なり性澄法師の阿弥陀経の句解ヲかける
梵語ヲ毛やだといふをこゝろ
三毒をうくるゆゑヲ堪忍といふなり又祖庭事苑ヲ
いふとハ堪忍とハ衆生ら
八苦のなるゆゑ愛別離苦といふなりかるがゆゑ
いとふべきハ娑婆なりいんとなるバ
ものハとそそるみる

寿命ハ蜉蝣
の如し
朝ヨ生て夕
ヨ死矣

身體ハ芭蕉

くゝるバなりつぎヨ六道と八地獄道餓鬼道畜生道修
羅道人道天道なりくゝるゆゑ六道講式ヲくゝるあそまても
る弦あそるべきハこの六道なりそのゆゑ八生ずるものハかならず滅
まるゝるなり涅槃経偈曰盛者必衰とハ會者別離なり

寿命如蜉蝣朝生夕死矣

蜉蝣ハ水に生まれてくゝる死もむしなり李時珍が本草綱
目ヨ一名渠畧といふ蛣蜣ヨ似てちいさしゆびのかしらの
ごとし身せばくしてなが一角ありてきいろなり甲の下ヨはごろ
さなりよくとぶ夏の月雨ののちヨ糞土の中ヨむらがり生ずるなり
うに生まれてゆふべヨ死まるといる説ヨ云ふ毛ハ水ヨおよむ
虫なりくゝも蠶蛾ヨ似てなりくゝにむまるをてくゝるまヨ死まること
ハなり卓氏藻林ヨ蜉蝣ハなりにむまるをてくゝれヨ死ヨ人乃
長生まることなりくゝハざるヨさとふ

身體如芭蕉隨風易委矣

の如し
風に隨て壞易し

綾羅錦繡者
全冥途の貯に非

黃金珠玉者
只一世の財寶

芭蕉は風おひ〳〵ぞやぶるきやそのなり人の身のそろきことも
かくのごとくとなり維摩經云是身は芭蕉のごとく中お堅きこと
有ことろ〳〵と說ることなり隨願往生經云四大假に合〳〵て形芭
蕉のごとく中に實のなきことろ〳〵と云云

綾羅錦繡者全非冥途貯

綾はあや羅はうすもの錦はぬひものなり釈名に錦
は金なることを絃たくみおもちゐるゆゑにおなじ
ぎることを金のごとくみるがゆゑに字に金と帛と絃なんぞとこ
つゝり又周禮考工記に五ツのつるどり絃あり〳〵てるがきこゝろきぬの
うるはしき絃繡文といふなり切韻に八繡は五色の糸絃をもつて
万物のうつちを絃とつゝりなり財とは洪武正韻に積なり盛あつとなり
ちゝバひやゝきの衣裳絃はくことをいふまつとてを冥途黃
泉のことバにおひあるべからざるとなり

黃金珠玉者只一世財寶

海よりいづるこま絃珠とひ山よりいづるこま絃玉といふなり
ぐ祢や珠王のごぐひいぐ一生のひつぐのごろふてのちの世の重宝とは
あつべとなり儒に八金銀財宝ハいやしめてまことの宝とせざるぐ善絃にて
宝とはなり本文八妻子珍宝及王位臨命終時不隨者のこゝろなり

榮花榮耀者更非佛道の資

榮花榮耀おふるときハ道絃やぶるおいくるさをおよぼして佛道修
行のこゝろけおいたつぐもとも経に富貴而道絃学こと難しといへり

官位寵職者唯現世の名聞

寵とハ増韵に尊榮なり職とハ玉篇に主なりとなり官ハ百官位
ある人その職ごろくにさとるところおもくして人に崇敬せ
らるゝことを唯世絃かざりてうきこゝろの名のきこえるばかりおて未来の
ためにハなるべからざる道絃なり〳〵もし徳絃をして名の聞こゆる人ハ格別之

龜鶴之契絃致冥露命不消程

致とゝを
露命の消不
程

契とハやくそくするの義なり夫婦のちぎり絃むすぶことわやつるのあひだいきふりやうんと千歳万歳とことぶく絃ひふなり養性要集ふ亀鶴いのち百千のかぞへりとつゝり瑞應圖ふ亀いのち三千歳とあり本草綱目鶴の條下ふ相鶴経絃ひきていはく鶴を陽の鳥なり百六十年ふして雌雄あひうてふむ千六百年ふしてくちうつしてさゞめてさゞまるのんで食せバもなかち胎化なり又俞琰ふいはく亀鶴よく脉絃めくりもかるゝゆへふいのちながして死まるとゝるゝ氣ある次の句の露命とハ人のいのちのもろきを絃法句のもろきふさとゝていふなり漢文ふハ漢書蘇武傳ふ人生ハ朝露の如と亀鶴百千万のいのちにあやゝらんとちぎるこゝをこの身の露の命の消もしてゐるあひだいうぞとゝ

重鴛鴦之衾身體不壞間

鴛鴦の衾とハ夫婦のきていぬるふとめのふたりおどりおどりのなりのよきをゝのるをバいふ本草綱目り

重ゝを
身體の壊不

鴛鴦之衾絃

間

忉利摩尼の
殿を
遷化の無常
絃歎

崔豹が古今注絃引て云鴛鴦雄雌相離ゝ人其一絃うまバ一ハ相思て死をこゝ絃西鳥とつゝと西京雑記ふ趙飛燕皇后となるまりその女弟鴛鴦のふゝまま絃飛燕ふおくるとゝり又天宝遺事ふ玄宗楊貴妃の契絃称して被底鴛鴦とつゝなりくのごとくおゝどりのふゝまま絃さゐてふゝぬのちぎり絃ありとのゝもこの身のやぶまくちぬあひだをこゝのゝこゝぞとゝる老杜が詩ふも合歓尚時のり鴛鴦獨宿ぞといつり文選の古詩ふも綵雙る鴛鴦あり裁て合歓の被とゝつり

忉利摩尼殿遷化無常

忉利とハ三十三天のことなり従義法師の補注ふ三十三天の名絃らぐくのせいまどゝゝ去ゞまバこゝふ畧ゝ慧琳の涅槃経の音義ふ忉利天ハ須弥山のいゝぎのうへふありて四方おのくく八天王あり帝釈おりふあまり三十三絃合まるとあり又一義ふ云摩尼とハ如意珠といふ玉のことなり因陀羅網とて玉の網絃ありてそのひろくゝやきゝる玉の宮殿あまバ摩尼殿といふるゝ

大梵高臺の
閻ふ
火血刀の苦
絞悲

源信大師の觀心畧要集ふ因陀羅綱の互ふ相影現まるごにしと
いるハこまとるう又雜宝藏経ふ命終て三十三天の摩尼宍宮殿
中ふ生まること絞得此宮殿ふ乘じて善法堂ふ至ると文あり
迂化の無常と八往生要集ふの忉利天のごときハ快樂きはめ
りなしといへども臨命終の時五衰ひい現ぜ一ツふハ頭上乃
花のうぞこもちまち赤ぶむ三ツふハ天衣塵垢ふけがさる三ツふハ
ときのこようあせいづ四ふハ両目去バくまーろぐ五ツふハ
本居絞さのまぶとひう

大梵高臺閻浮火血刀苦

大梵と八梵輔天のなるふ高樓閣ひう大梵天と名づくと倶
舎の疏ふうくう火血刀と八三途絞いふう四解脱経ふ地獄絞
火途道と名ばけ餓鬼絞刀途道と名ばけ畜生絞血途道と
名づくこま絞三途といふう三毒ふ對を火途ハ嗔恣ふて
地獄なり刀途ハ慳貪ふて餓鬼なり血途ハ愚癡ふて畜生
なり三藏法數ふうくう又盂蘭盆経の會古通会記ふ地

獄八日夜をゆる也へふ火といひ餓鬼ハ草絞ありて刀とうてまろし
うふ也へふ刀といひ畜生ハうぐひふ肉絞くうひ血絞をる也ふ血と云

須達之十德
也
無常於留と
無

阿育之七寶
也

須達之十德

須達と八長者の名ありて名義集の長者篇ふ須達多まこ婆須
達多とをいふう十德と八天台大師文句ふ長者ふハ十德あると
いう一ふハ姓貴とそうじをへうこうう二ふハ高位とそくう
いうき絞いふ三ふハ大富とそぐいうふふそくうき絞いふ四ふハ威
猛とていせいはよき絞いふ五ふハ智深とそちるふうき絞いふ六ふハ年
耆とそとう七十ふのまる絞いふ七ふハ行淨とそおこるひのきよき絞
いへふハ礼備とそまいぎのそなわうこう絞いふ九ふハ上歎とてか
うふんでゐめうる絞いふ十ふハ下歸とてうをふきゐせうる絞云
右のごくふ十德絞そなわりて人ふそうきふうせうまこる須達長者も
無常のをひ絞ハどぐむるとうりぐうく法いふ死せりとふり

阿育之七寶

壽命於買と無

阿育ハ天竺の國王なり名義集帝王篇ふ無憂王とゝなり七寶とハ一ふハ金輪宝二ふハ白象宝三ふハ紺馬宝四ふハ神珠宝五ふハ玉女宝六ふハ主藏宝七ふハ主兵宝となり大乘百福莊嚴相經ふいぞう阿育王ハ金銀財宝ハあわくくくハくる王なるゆふ八万四千の塔ハたくまうしこと八万四千塔記といふおくえ〳〵くうりう日本てもむう〳〵阿育王の塔ハそ〳〵こと善覺子弥陀偈異考ふある世うり阿育王ハうこのごくたう〳〵ハあわくこもちうまどごも壽命ハなう〳〵ぬとある

月支の月ハ威ある人を琰王の使ふハ縛被

月支還月威琰王使被縛

月支とハ天竺ハいふなり還月威ぁ人とハ五通の梵士ハいふなり法句譬喻經ふ梵士四人兄弟のそのうちおのく〳〵五ツの通力ハあるくうち七日ののち四人ぁ〳〵いちどふいのちおり〳〵こと〳〵ハ老てとそもおひぎ〳〵ていくうまう〳〵五通のちう〳〵天地ハ反覆〳〵手ふ日月ハとり山ハうつ〳〵なぐさ〳〵ハとむるふてそうつこハざることなり〳〵いぞう死ハまぬうまざ〳〵んやと無常の殺鬼ハのがまんぐあ王ふいとま〳〵ハこゝて一人ハ大海のあうふあうう一人ハ須弥山のあうふ處〳〵一人ハ虛空のあうふあうくまで一人ハ市のあうふいんと〳〵ハるか七日の期まんじて四人とそもいのちおうること菓實のじもくしてあうるがごと〳〵王このよう梵士四人ぁ〳〵五通ハあうよく死ハまぬうこと〳〵ハあるんやと佛大王ふたゞくまおうく人ふ四の事ありさう〳〵ふのごとく〳〵一ツふ中陰のあうふありて生ハうけざること〳〵ハあるぞ二ツふハ生まて老ハうけざること〳〵ハあるぞ三ツふハまでふやまひして死ハうけざること〳〵ハあるぞと次の句ふいふ琰王の使とハ十王經の説ふ一切衆生命終の時ふのぞうて閻魔法王閻魔卒ハたうハそひとう〳〵ハ奪魂鬼と名ばゝうう〳〵ハ魔鬼のうハ琰羅といふ靜息と翻叛も悪ハ造そのふ不善業ハつめやむるこうろあう本文の大意ハ月支国の梵士が日月ハ自由ふいてめぐりしる通力をその威勢むる〳〵くして琰王の使ふハかるひぐ〳〵くめと〳〵まて命ふおまうとある

十王經不入經目録恐偽經欤

龍帝の龍ㇱ
投ㇾ力ヲ
獄卒の杖ヲ
打被

人尤施ㇱ行
可
布施ハ菩提
の粮
人最財ㇱ惜
不
財寶ハ菩提

龍帝投ㇱ力。獄卒杖被打

龍帝がことそまびらかなるハ本文のごとくにて水府のㇾうぢうをㇾ
そのカよく龍ㇱるばかりにあらずつねに龍ㇱるをも死ㇾて地獄
獄卒とハ地獄の卒なり牛頭阿旁ハ獄卒のかしらなり
只夜刃のごとく六十四の眼あり鉄丸ㇱもㇾ牙ハ狗の牙のおとく
牙の端より火をふく八の頭六十四の角ㇾり角の端ヨ火をもえ
化ㇾて刀輪となり阿鼻城ヲ満とㇾり

人尤可ㇱ行施。布施善提粮

人最不惜財。賊寃業提障

布施とハ人ヲ慈ㇾの心ㇱて施ㇱなり布施ヲ三ツのㇾるㇾり食施財施法
施なり食施とハ人ヨ食物ㇱてㇾいのちㇱもくるㇾり財施とハ
財宝ㇱてくるㇾり法施とハ説法ㇾて衆生ㇱもくふるㇾりをふさふ
未曽有経ヨこの布施ハ菩提ヲくるそとなり六波

羅蜜の第一檀波羅蜜ハ布施の行なり粮ハ糧の字とあるㇾ説
文ヨ穀食ㇾりとㇾり財宝ハ菩提の障と心ふさいㇾりㇱあㇾそ
執着をくるときハㇾりㇱ仏道のさハりとなるなりそまㇾㇱ人ヨ布
施をすゝめバㇾて菩提のくまもとをㇾりかてとあるㇾり三昧経ヨ布
施ハ是慳貪ㇱ破の前陣正道ヨ入の初門菩薩能ㇾこまㇾㇱ行者
ハ則十種の利益ㇱ獲とㇾり布施ハ福徳の資糧と宝積経ヨくㇾり

若人貧窮ヲ。可布施當ㇾ財

見他布施時。生随喜ム心

この四句ハ諸経要集ヨくのごとくの文ㇾりをㇾ人まづㇾくしてこゝろ
ヨ布施ㇾ〳〵ど施ㇾきそのㇾくとも他の人の布施をくるㇾㇱ
こそとをヨよろこぶ心ㇾあこまバその功徳布施をくる人とあるㇾきㇾり
随喜とハきくㇾひよろこぶなり法華経ヨをも随喜功徳品とㇾりㇾ人
のわけきㇾㇱてぎきまるこ佛在世の貧女随喜の心ㇱな
ㇾて佛ヨ一灯ㇱきㇾくまバㇾとけ須弥灯光如来の記別ㇱ授こゝヨ

若人貧窮の
身ヨて
布施を可ㇾ財
無んバ
他の布施を
る時ㇱ見
随喜の心ㇱ
生ぜ可

の障

悲心一人ヲ施ときハ功徳大海の如く已ヶ爲ヲ諸人ヲ施ハ報ひ得ること芥子の如し

砂ひ聚て塔と爲人早く黄金の膚ひ研

悲ん施一人。功徳ぬ大海
爲已施諸人。得報ぬ芥子

この文ハ提婆尊者丈夫論の偈ヲこゝにひり慈悲心ひまろ〳〵ことゝるときハひとり一人ヲもとこゝもその功徳大海のごとく大ひあり又ひとり身のくめヲとありてるせバいろ〳〵ど諸人ヲもどこゝてゝそのむくひひ芥子のごとく小とあり

聚砂爲塔人。早研黄金膚

塔とハ梵語ヲハ卒塔婆ヲうつのことバヲハ高顕とゝふと金剛経の畧疏ヲふるくゝり黄金の膚とハ佛身ハ紫磨黄金のごとく〳〵なり金光明経ヲも佛身微妙ヲて真金色ありとひりこゝ〳〵のくゝゝまそどヲいさゞ我ひつめて塔ヲ成佛の妙法ヲひりひぬまバとゞく〳〵黄金の膚ひ研くがく佛身となるありこのこゝろハ法華経方便品の偈ヲひり

折花供佛人。速結蓮臺跌
一句信受力。超轉輪王位
半偈聞法徳。勝三千界寶

折て花ひ佛ヲ供ぎる輩ハ速ヲ蓮臺の跌ひ結

一句信受の力ヲ轉輪王の位ヲ超さり半偈聞法の徳ヲ三千界の寶

折花供佛ヲ速結蓮臺跌

花ひ佛ヲ供養して功徳ぬうること我ひ諸経ヲひりひげてゞゞ〳〵花ひ佛ヲふるむくるくどくハ深甚るまバ佛果ひさとりて我ひ供養ヲまバろ〳〵跌ひ結とハ両の足ひくゝこのハせて叫蓮臺ヲ結跏趺坐ヲるなり跌ひ結ヲハ観佛三昧経ヲもゝ一華ひ乃てゝゝこん跌ひ結とゝふ

一句信受力超轉輪王位
半偈聞法徳勝三千界寶

華厳経ヨ若一句一偈未曽有法ひ聞バ三千大千世界の中ヲ満る七寶及釈梵転輪王の位ひ得ヲ勝さりとひる文ふうなゝり一句ふうけ念力ヲおさめろそのハさいの世界のひとゝ〳〵転輪王の位ひ我うるようを超さりとなり転輪王とハ

ふ勝さり

上ハ須佛道
成求須
中ハ四恩成

くるまの輪のめぐる成ごとくして人成ごとくちびき世成あさめる由つゐ輪王こゝろなり名義集ふこゝ偈とゝハ梵語なりゐるひハ偈他ことをゐつこゝまハ伽陀とゐふべき音成ひやまをるなりそゝこゝをゐてハ須といふなりゐをゐくの経五字七字成句とゝ以上つゞき

ゐる成一偈とまをるみりその功徳三千世界の宝よりを勝るぞとなり三千界とハ三千大千世界なりひとつの日月四天下成めぐりて光明のてゐまをこゝろをかくのごとく千世界のなゐふ千の日月千の須弥山王四千の天下四千の大海四千の悪道千の閻羅千乃四天下千の忉利天千の梵天ふいてるこゝ成小千世界とまをこゝをくの小千界こを成中千世界とまをこゝをくの中千世界こを成三千大千世界とゝ事ハ阿含経ふこゝゐり

上須求佛乃中可報四恩
下編及六道共二ふ仏乃

報ぜ可
下ハ編六道
ふ及
共ふ佛道成
成可

上ハ成佛の道成ごろふをとめ生死成いづること成一大事こゝ
ごゝこま上求菩提ゐり中ハ四恩成報ぜごゝとハひとつふ父母の恩ふこゝろふハ衆生の恩ふこゝろふハ國主の恩よつふハ三宝乃恩ゐりくゐゝくハ大乗本生心地観経ふとけり下ハ衆生慈悲成おふぜせとハ下化衆生のこゝろなり六道のことハまへゐふ佛道成ともるこゝ大乗心の至極なり法華経ふを皆共成佛道とゐるハこまこゐり廣弘明集ふこの三者ハ沙門の大孝ゐりとゐゐ

為誘引幼童注因果道理

幼童成誘引せんが為ふ因果の道理成註

楞伽経ふ授童蒙とゐふハ初機成ゐりとゐゐ一つまゝして教ともなり因ハ種なり果ハ實ゐり善因成まけバ善果實成悪因成まけバ悪果成むもゐゐり此書ハ因果の二字成大事とまをれバなり〇愚按ずるふをと登山の児童ふ庭訓の書ゐるがごとくその教儒佛ふ渉ゐるとごを西学の妙理我儒ふ勝まりとせバまづ巻の始ふ夫貴人の前

内典外典より出さり見者誹謗をゑ勿聞者笑ゑ不

出内典外典見者勿誹謗聞者不笑

内典とハ佛書のことなり外典とハ儒書ゑつる心ゑ治ゑ内教とゐひ身ゑ治ゑ外教とゐひ發徴録ふくろう誹謗とハ人其悪ゑ道ありと云篇ゑおゐて作者の本意ゑ

おゐでうゐふところハ此書ハ儒佛の二道よりぞくまでゐる故ぎうふ見るもてあぎるまできくりのそひるどろもふと云ふ(一説曰童子教ハ五大院安然和尚の作ところなり志うまどをうの師のつくる教時問答菩提心義即身成佛義私記をどくくぶまハ文義くぶるろとゐう○愚按ずるふ此書ハ童子の聞易ふんがふめふとしてかろるるまバひるぎち文章の沙汰もゞふぎこと云讀で一句一言用

ゞーとまること云知さまバ聖言云ひるどるをのふちくらぎや安然上人の罪人なり云ふくおそハゞふぎやさふ作者の傳云あげくろ

元享釈書巻四曰釈の安然ハ傳教大師の系族なり母ゆめむくく明星をところふ入とよろそくむとひう生むるふおよびて聡敏人ふまぐろうもやく叡山ふのぐう衣云慈覚の室ふいはくろひ顕密乃奥秘餘蘊ふなゝーまさ花山の遍昭ふつきてさわて胎藏の法云くおよそ経論ふ渉猟ー百家ふ馳騁もその述作ふるところ教時問答菩提心義悉曇章等なり乃至元慶八年ふミことのうーて元慶寺傳法阿闍梨ふミてゝまろと云云

童子教澤注終

實語童子二教註跋

振鷺亭先生。嘗閲素紙。そとめ。江都城のゐて。武の多摩川の邊ふ菴室ゐ
トし。一圓窓下ふ村童ゐ集め。習しむるふ實語童子の二教ゐ以も小子弱冠ふし
て従学し。一日先生うの書ゐ講ぎるの時。問曰二教頗佛説多し先生ハうま儒
家の士成佛ゐいと奈何。先生完尓咲曰。本邦の兒輩まづ初学ふこと比讀こ
うの朱晦翁が小学の如くす。其例や字学者流よりおとるまでこと学ふ入の階梯
なり。嗚呼你彝ゐ秉き。正ふ天下の半学者うんとき。ことが説ゐ與ふ謂ひ
小子黙しして其理ゐ識ふいくぐれとも。平日口授まるところゐ以て密ふその
意ゐ得ことひり。頃日書肆の需ふ應ど。遂ふ一篇の抄書とし。但ことゐ梓ふ
行うとハ師の意ふひらく。恐ハ真儒の識ゐ厭バるり。然ども我ふひとし
童蒙の為ふ。おま比傳ゐんと云爾。

門人　濱專輔　謹識

玉巖堂藏牧目録

東都南國
横山町一丁目　和泉屋金右衛門

梧窓漫筆　錦城太田先生著　全三冊

先生平日隨筆劄記ノ書也古今治乱ノ本原ヲ推シ邸俗利害ノ隠ル所ヲ論シ博ク経傳子史ヲ引テコレヲ証シ又撃剣ノ術ノ如キ天人ノ秘蘊ヲ漏ス實ニ天下有用ノ珍編ト云ヘシ

同後編　同上　全二冊

前編ニ漏レタル妙論ヲ載セ又経學詩文ノ流派ヲ辨別シテ其精確ヲ極ム前編ト同ク双璧ノ書ナリ

同二編　同上　全二冊

向者刊行スル此書前後編四冊盛ニ世ニ行ハレ戸ゝトニ賢ヒ人毎ニ繙テ古今ノ事理ヲ通暁ス今此篇ハ彼四冊ニ漏レタル名言奇事異説ヲ湊合シ全函ノ鴻寶トス

農家調寶記　芳蘭山著　全二冊

人天地開け耕作る由来ふ説て百穀ふおのおの其地の勤方作為ふ説き方換ふ年貢収納等ふ及ぶ迄婦女稼穡の式ふの細ふ説ふ方ふとゝトヒとゝもに農家ふ緊要ふき事業ふ悉尽ふ

農家用文章大全　同上　一冊

用文章の書ふ載ふ事ふ悉尽ふ世ふ出ふる文章ふ出ふの通篇ふふの類或ハ華ふふる文辞ふ其ふ雅ふふ俗ふふ取ふ捨ふ耕作ふ農具村組ふ納ふ他ふの家ふ雇ふ村の文字ふ換ふ年中出式ふ臨時ふ諸用ふ辺ふ遠ふ近ふの他ふ農家ふ必ふ要ふ教育ふ便利ふ為ふ

梧坡教諭　錦城先生附言　全二冊
堯民先生著
世教勸戒ノ意ヲ主トシテ旁ラ故事古書ヲ引テ証明シタレバ梧窓漫筆ニ類シテ又別ニ経ヲ開キタル珍書ナリ

朱子家訓經典餘師　齋里先生述　全一冊
世ニ南宋ノ名儒朱熹先生平生子孫ヲ導ビキ給ヘルヲ一家相伝ヘテ人倫乃道ヲ明カニシ常ノ家ト齊ラル器一ノ書ニ今五字ヲ以テ書ヲ和解シ且ツ農工商ノ三民ニ便ニ子孫ヲ久無窮ニ導ビキ基ヲ

笑戯自知録　伴田陳人著　全二冊
（illegible）

除蝗録　大蔵永常著　全一冊
（illegible）

野総茗話　常盤潭北著　全九冊
（illegible）

秘伝玄寶記　（illegible）
（illegible）

三都書物問屋

京都寺町通松原下ル町　勝村治右衛門
大坂心齋橋通北久太郎町　河内屋喜兵衛
江戸日本橋通一丁目　須原屋茂兵衛
同　淺草茅町二丁目　須原屋伊八
同　日本橋通二丁目　須原屋新兵衛
同所　山城屋佐兵衛
同　芝神明前　岡田屋嘉七
同　本石町十軒店　英屋大助
同　淺草廣徳寺前　和泉屋庄治郎
同　横山町三丁目　和泉屋金右衛門